

令和5年度

事業報告書

社会福祉法人 神戸市社会福祉協議会

目次

I	はじめに	1
II	令和5年度事業報告【概要】	2
III	令和5年度事業報告	
	ミッション1 気づき・共感を育む	
	福祉の心を育む「ふれあいのまちKOBE・愛の輪運動」の推進	7
	ボランティア活動の推進	8
	福祉人材育成のための各種研修事業の実施	10
	情報発信の充実	17
	ミッション2 ぐらしに寄り添う	
	地域福祉ネットワーク事業・生活困窮者支援	18
	児童就学・次世代育成支援	20
	権利擁護に関する取り組み	22
	介護保険サービス等の提供	28
	認知症支援事業	36
	障害者地域生活支援拠点の運営	38
	障がい者のスポーツ・文化の振興	43
	点字図書館の運営	52
	障害者福祉基金を活用した助成事業	56
	神戸ふれあい工房の運営	57
	こども・子育て支援	58
	地域福祉施設の管理運営	76
	神戸市介護サービス協会事務局の受託	76
	ミッション3 つながり、支え合う	
	地域福祉活動の推進強化	78
	神戸市民生委員児童委員協議会事務局の運営	81
	福祉団体、NPOやボランティアグループへの助成	82
	災害支援の取り組み	83
	民間社会福祉施設の振興	84
	多様な福祉活動参加の推進	85
	活動を支える体制の強化	87

I はじめに

本会では、2021年度（令和3年度）から2025年度（令和7年度）の5か年計画として、「こうべ」の社会福祉協議会 地域福祉推進計画2025」を策定し、次のとおり、ビジョンと3つのミッションを定めました。

ビジョン “こうべ”の社協が実現したい未来の姿

拡げる理解 拡がる参加 お互いさまの地域づくり

地域の皆さんの一人ひとりが主役となって、様々な立場の人たちが手を取り合って進める誰もが幸せを感じることができる地域づくり

ミッション “こうべ”の社協が行うこと

気づき・共感を育む

ともに支え合う社会にするためには、くらしの困りごとを抱えている誰かの存在に気付くこと、その方の悩みに寄り添う気持ちを抱くこと、誰もが持っている優しさや思いやり、助け合いの気持ちを育み拡げることが大切です。

“こうべ”の社協は、くらしの困りごとを解決するため、地域の皆さんの助け合いの気持ちを後押しし、福祉の心の輪を拡げます。

くらしに寄り添う

障がいがあっても、高齢になっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けたい。

そんな想いを形にできるように、一人ひとりの悩みを受け止め、「くらしを守り、自分らしく生きる」ための働きかけを、ご本人に寄り添いながら進めます。

生きがいややりがい、地域とのつながりづくりを意識しながら福祉の専門職や地域の皆さんと一緒に、一人ひとりのくらしを支えていきます。

つながり、支え合う

ともに支え合う社会にするために、自分のまわりに少しだけ目を向け、心を寄せ、その人らしさを認め合える地域を目指します。

人それぞれの得意と苦手をうまく補い合いながら、互いに支え合い、将来の自分を含む全ての人が幸せになる取り組みを進めていきます。

令和5年度は、この“こうべ”の社会福祉協議会 地域福祉推進計画2025の趣旨に基づき、ミッションの達成にむけてそれぞれの関連する事業に取り組みました。

II 令和5年度事業報告【概要】

ミッション1 気づき・共感を育む

福祉の心を育む「ふれあいのまち KOBE・愛の輪運動」の推進

地域福祉への参画を促進するため福祉教育・啓発活動に取り組んだ。

「愛の輪ポスター」の作品募集では、子どもたちが福祉の心を表現したポスターを制作する過程で日々の暮らしの中にある福祉に思いを巡らせ、福祉を身近なものと感じてもらうことをねらいとして応募を募った。

障がい者に対する理解を深める取組みである「障がいサポーター養成講座」では、出前形式で当事者による講話や疑似体験による学びの機会を提供した。

福祉施設での「福祉体験学習事業（ワークキャンプ）」は、新型コロナウイルス感染症の影響により3年間実施できていなかったが、362施設の協力のもと1,196名が参加した。

福祉人材育成のための各種研修事業の実施

市民の福祉に関する理解と参加を促進し、ボランティアから社会福祉事業者まで、幅広い福祉人材の育成と資質の向上を図るために、市民福祉大学の運営を行った。

新型コロナウイルス感染症5類移行後、大半の研修を集合（対面）形式で実施した。一方で、遠隔地の講師や受講者の移動の負担の軽減を図るため、オンラインやオンデマンド研修にも引き続き取り組んだ。

認知症高齢者に対する介護サービスの充実を目的に、高齢者介護の指導的立場にある職員及び介護業務従事職員を対象に、厚生労働省通知に基づく研修を実施した。

ミッション2 暮らしに寄り添う

地域福祉ネットワーク事業・生活困窮者支援

〈地域福祉ネットワーク事業〉

課題が複雑化し、現行制度だけでは解決が難しい制度の狭間と言われる課題に市・区社協一丸となり取り組んだ。

また、生活福祉資金での相談を入口に、金銭課題の背景にある本質的な課題解決への取り組みを強化した。

個別支援を積み重ねる中で得た課題を、地域を巻き込みながら課題解決のための新たな仕組みづくりにも引き続き取り組んでいる。その取り組みの一つとして、孤独・孤立の課題を抱えた方や就労の課題を抱えた方などを対象とした生きがいや、やりがいづくりの場として『居場所』活動が各区の特色を活かして全市で展開されている。

〈生活福祉資金貸付事業〉

生活に不安を抱えた低所得、障がい者世帯に、資金の貸付と合わせて必要な相談支援を行う「生活福祉資金」では、教育支援資金をはじめとする貸付相談に対応した。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受け減収となった世帯を対象とする「新型コロナウイルス特例貸付」の申請が令和4年9月末で終了し、令和5年1月から開始となった償還（返済）に関し、返済が困難な借受世帯に対し、償還に関する支援を各区で行った。

加えて、実施主体である県社会福祉協議会との連絡調整を担い、区社協に対して情報提供や課題の吸い上げ、県社協との調整や要望を行った。

〈“コロナ禍”の影響を受けた人々を支援する特別緊急支援事業〉

「就活応援プロジェクト」と題し、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、離職を余儀なくされ、再就職や転職を目指す生活困窮者や、ひとり親世帯等に相談窓口を通じて就職活動に必要な衣類(スーツやカバン等)の貸し出しを外部団体と連携し行った。

権利擁護に関する取り組み

〈安心サポートセンター〉

認知症等高齢者や知的・精神障がい者の権利侵害や財産管理等に関する権利擁護相談や日常生活自立支援事業(福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理支援)を実施した。

日常生活自立支援事業については、増加傾向にある利用ニーズに応じて相談から契約までの期間縮減に取り組んだほか、個別相談会付き出張説明会の実施や支援者向け相談の手引きの配布等により利用促進を図った。また、より身近な地域での権利擁護相談の体制づくりを目指し、区社協との連携強化を目的とした研修を実施した。

〈成年後見支援センター〉

令和4年度から神戸市成年後見支援センターは権利擁護支援のための地域連携ネットワークの中核を担う機関(中核機関)と位置づけられており、引き続き中核機関に求められる4つの機能(①広報・啓発機能、②相談機能、③制度の利用促進機能、④後見人支援機能)の充実を図った。

令和5年度は、相談機能の強化と相談者の利便性を高めるため、これまでの電話・来所相談に加え、オンライン相談やオンライン来所予約を導入し、相談件数は過去最多を更新した。

また、市民後見人が地域のつどいの場に出向き、オリジナル動画とチラシを使って成年後見制度を紹介する活動を市内3区でモデル実施し、身近な地域での広報活動の強化を図った。

介護保険サービス等の提供

北在宅福祉センター、長田在宅福祉センター、須磨在宅福祉センター、西在宅福祉センターにおいて居宅介護支援事業、地域包括支援事業を実施した。また、長田在宅福祉センターにおいて通所介護事業、西在宅福祉センターにおいて認知症対応型通所介護事業を実施した。

認知症支援事業

既存の制度だけでは、生活ニーズの充足が困難な若年性認知症の方への支援を行うため、月1回本人同士、家族同士が安心して、自己実現や情報交換ができる居場所として交流の場「ソレイユ」を実施した。本人・家族の自己実現、情報交換、レクリエーション、勉強会を目的に開催した。令和5年度はのべ203名の参加があった。

障害者地域生活支援拠点の運営

障がい者等やその家族が、安心して生活しつづけるための支援拠点となる「障害者地域生活支援拠点」を運営し、介護者が病気等で急に不在となった障がい者を短期入所に緊急で受け入れるなどの役割を果たした。また、拠点設置から5年が経過し、この間複合的な課題を抱える障がい世帯に対し、地域の方や福祉関係者と障害福祉サービスなどを活用し包括的な支援を行ってきた支援の振り返りを行った。学識経験者からの講評ならびに、当事者による特別講演会により、改めて障害者への支援としての拠点のあり方や社会的意義を福祉関係者と共有した。

障がい者のスポーツ・文化の振興

障がい者の機能回復と健康の増進を図り、社会的自立と社会参加を促進するため、関係団体や企業の協力・支援のもと、障がい者スポーツ大会を開催した。また、広報誌やホームページなどによる積極的な情報発信や市民との交流を深め、障がいへの理解を広げることに努めた。

障がい者スポーツを、ユニバーサルスポーツの観点から、障がいのあるなしに関わらず、積極的に普及啓発事業を展開した。地域展開事業や出前教室など学校や児童館、地域のイベントなどで障がい者スポーツを体験できる機会を提供した。

さらに、令和6年度に神戸市で開催が予定されている世界パラ陸上競技選手権大会に向け、大会組織委員会と連携し、「パラスポーツ王国 HYOGO&KOBE 2023」において、スポーツ義足の特別体験会のブースを設置したほか、「第7回こうべ障がい者芸術フェスタ HUG+（ハグ・プラス）展 2023」の会場で特別展示を行うことで、大会の認知度向上を図り、障がい者スポーツの啓発を行った。

点字図書館の運営

視覚障害者情報提供施設として、視覚障害者の生活の自立と社会参加の向上を図り、生活や文化の質が豊かになるように幅広く情報提供を行った。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け縮小していた活動を従来の水準に戻し、①点字図書・録音図書の貸出・閲覧をはじめ、②中途失明者のための点字教室の開催、③利用者からの点訳・音訳依頼等のプライベートサービス、④読み書き・対面朗読サービス、⑤点字・音声版「広報紙 KOBE」と音声版「市会だより」の発行、⑥福祉機器展の開催など、視覚障がい者の情報入手環境の向上に努めた。

また、読書バリアフリー法に基づき、読書が困難な障がい者が安心して自立した生活を送れるよう、情報サービスの充実を図ったほか、視覚障がい者等の読書環境の整備に向けた取り組みを推進するため、中央図書館、神戸市、教育委員会、本館が集まり連携体制構築に向けた打合せ会を開催した。

こども・子育て支援

〈こべっこランド〉

昭和62年のハーバーランドでの開館当初から管理運営を担ってきたこべっこランドが令和5年1月に閉館後、同年2月に兵庫区和田岬でリニューアルオープンし、児童の健全育成をはじめ、児童福祉の中核施設として、安全に配慮しながら運営を行った。

〈児童館〉

令和5年度は東灘区・垂水区の児童館指定管理者公募年度となり、東灘区は運営業績が良好のため1館更新（5年間）を実施し、垂水区は応募した結果、1館の指定管理者に指定された。

また、市・区社協の法人合併に伴う雇用・勤怠業務の集約化のため、灘・中央・兵庫（先行3区）において、区社協で雇用していた放課後児童支援員を市社協雇用に変更するため、施設長への説明会や職員への意向調査を経て、雇用変更に伴う事務手続きを行った。

ミッション3 つながり、支え合う

地域福祉活動の推進強化

区社協との連携として「地域福祉推進基金」を活用し、地域住民やボランティア等との協働のもとで、区社協が実施する地域福祉の推進を目的とした事業、各区社協の法人基盤の強化も含めた経費の助成を行った。

また、市・区社協の理事長などの役職員が一堂に会し、地域福祉の推進に向けた意見交換などを行うことにより、“こうべ”の社会福祉協議会として、今後の進むべき方向性について、共通認識を深めるため、区社協役員協議会を開催した。

「地域共生社会を実現するために 重なり・つながり・支え合う」をテーマとした基調講演を実施し、地域の新たな生活課題についての共有を行った。

神戸市民生委員児童委員協議会事務局の運営

神戸市民生委員児童委員協議会事務局として、区民児協との連絡調整や資質向上のための研修会等の開催や共済事業などに関する事務を担った。

令和5年度近畿ブロック府県・指定都市民生委員・児童委員関係事業会議を開催し、近畿の民生委員関係者が一堂に会し、活動の状況や成果、課題等について共有し、協議を行った。

また、地区会長に配付したタブレットを活用し、民生委員・児童委員間や関係者との情報共有、WEB会議の開催、動画配信研修の視聴などを行った。また、民生委員の負担軽減、就業と民生委員活動の両立等を目指すため、ICT化の推進を行い、新たな民生委員の担い手の確保することにつなげられるよう支援した。

災害支援の取り組み

神戸市内に避難したウクライナ戦争被害者に対する支援募金を実施し、避難者の神戸市内での生活支援のための配分を実施した。

また、令和5年2月6日に発生した、トルコとシリア国境付近を震源とする地震被災者への災害救援募金を実施し、全額、日本赤十字社が実施する「2023年トルコ・シリア地震救援金」へ寄付した。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震においては、下記対応・支援を実施した。

- ①被災者への令和6年能登半島地震災害救援募金を実施
- ②災害ボランティア希望者、支援団体への相談対応、情報提供を実施
- ③被災社協が運営する災害ボランティアセンターへの職員派遣（のべ17人）
- ④緊急小口資金特例貸付に係る職員派遣（1名）
- ⑤被災地から神戸市内に避難されている方への生活相談を実施

民間社会福祉施設の振興

神戸市内の民間社会福祉施設の経営者ならびに従事職員の相互扶助を目的とした退職手当共済事業を実施した。

令和3年度からは、将来にわたり安定した制度運営を図る目的で、①退職手当給付金額の計算方法の見直し、②退職手当給付金の支払要件の変更、③事務負担金の創設、④運用利率の引き下げといった大幅な制度改定を行い共済財政の改善に取り組んでいる。

活動を支える体制の強化

令和5年度は市・区社協が連携して地域生活課題への対応を始め地域福祉活動を一層推進すること、法人運営基盤の強化を図ること、効率的な事業運営や人が育つ組織体制を構築することを目的に、市・区社協の法人合併も含めた組織体制を協議するため区社協及び市社協の役員で構成する「市・区社協組織体制あり方検討会」を引き続き開催し、令和7年4月1日合併に向けて、令和6年4月1日付けの合併契約書・基本合意書の締結の決議を各々の市・区社協の評議員会で決議した。

ミッション1 気づき・共感を育む

福祉の心を育む「ふれあいのまち KOBE・愛の輪運動」の推進

(1) ふれあいのまち KOBE・愛の輪運動

ソーシャルインクルージョン（社会的包摂：だれもが潜在能力を発揮でき役割を持ってつながり合う地域社会づくり）の理念に基づいた「思いやり」「譲り合い」「助け合い」の福祉の心を育み、ボランティアなどの実践活動に結びつけることを目的とした神戸の市民運動「ふれあいのまち KOBE・愛の輪運動」を推進した。

①愛の輪ポスター・障害者週間のポスターの募集

福祉教育の一環として、福祉の心を表現した「愛の輪ポスター」、障がいのある人に対する理解を広めるポスター「障害者週間のポスター」を募集し、福祉に関する啓発を図った。

愛の輪ポスター・障害者週間のポスター

応募総数 615 点（小学生の部 497 点、中学生・高校生の部 114 点、特別支援学校の部 4 点）

②愛の輪ポスター・障害者週間のポスター展（入賞作品）

ア. こうべ市民福祉交流センター 令和5年12月2日(土)～12月8日(金)

イ. 花時計ギャラリー 令和6年1月11日(木)～1月17日(水)

③「愛の輪ポスター、障害者週間のポスター、心の輪を広げる体験作文、表彰式」の開催

実施日 令和5年12月2日(土)

場 所 こうべ市民福祉交流センター

参加者 119 人

④「温かい手」の発行

愛の輪ポスター・障害者週間ポスターの入賞作品集「温かい手」を 1,100 部発行した。

(2) ボランティア・福祉体験学習用資機材の貸出し

市内の学校・事業所等が実施する福祉学習や介護、ボランティア研修を対象に車いす、アイマスクや携帯点字板等の貸出しを行った。

【貸出状況】

(個数)

車いす	アイマスク	白杖	点字板	合計
129	14	160	281	584

(3) ボランティア活動の支援

愛の輪会員の企業・労働組合によるボランティア活動への取り組みを支援し、自立支援施設等への電化製品の寄贈や、障害者施設への音楽療法用の楽器の寄贈、「こうべ福

社・健康フェア」へのブース出展等、団体の特色を生かした社会貢献活動の推進に取り組んだ。

(4) 障がい者への理解を深める取り組み

各障がいの基本的な知識理解、障がいのある方への配慮や接し方等についての啓発のため、学校や団体に対し「障がいサポーター養成講座」を実施した。

(実施回数 21回、講座受講 1,269人)

(5) 中・高校生の社会福祉施設での福祉体験学習（ワークキャンプ）

市内在学の中学生・高校生が神戸市内福祉施設で夏休みの3日間福祉体験学習を行った。協力施設 362施設 参加人数 1,196人

(6) 福祉体験事業の実施

点字図書館と児童館による福祉体験協働事業

障がい者福祉について学ぶ機会を提供し、子どもの福祉の心の醸成を目指すことを目的に点字図書館の紹介・点字体験等を実施した。

実施施設	実施日	参加者
長尾コーナー	令和5年8月7日（月）	児童26名、児童館職員9名、ボランティア3名
東須磨児童館	令和5年8月9日（水）	児童25名、児童館職員9名、ボランティア2名

(7) 本会運営施設等での福祉学習の推進

①トライやるウィーク 児童館 38館2コーナー・888人
在宅福祉センター 2人
点字図書館 3人

②視覚障がい学生の職場体験実習 点字図書館（県立視覚特別支援学校）2人

ボランティア活動の推進

(1) ボランティアの支援

①区ボランティアセンターの支援

「ボランティア情報システム」の運用を通じて、ボランティアに関する情報管理の効率化等、区ボランティアセンターの業務支援を行った。

ボランティアコーディネーターの連絡会を月1回開催し、区ボランティアセンター業務に関する情報共有と意見交換を行い、業務の質的向上に取り組んだ。

神戸婦人大学との連携により、令和5年度は神戸婦人大学3年生を対象としたボランティア講座を実施した。（実施回数：2回 参加者数：22名）

また、神戸市が高齢者の社会参加の促進を目的に令和2年9月から開始した「KOBEシニア元気ポイント制度」の説明会では、各区ボランティアコーディネーターが説明会にてボランティアセンターの役割等を説明し、事業の理解向上に貢献した。

②ボランティアコーディネートの実施

各区ボランティアセンターにおいて、ボランティアの助けを必要とする依頼者の要望等を伺い、その依頼に協力してくれるボランティアを紹介する「ボランティアコ

ーディネート」を実施し、市民によるボランティア活動の推進に取り組んだ。
コーディネート実績（全区計）

	ニード件数	調整完了件数	紹介率
令和5年度	1,330件	1,047件	78.7%
令和4年度	732件	583件	79.7%

③市・区社協ボランティア登録数(令和6年3月末)

	団体登録数	団体所属人数	個人登録数
令和5年度	3,279団体	119,476人	3,023人
令和4年度	2,828団体	119,453人	2,372人

④各種ボランティア保険の受付等

ボランティア活動中の事故に備えた、市民活動災害共済等各種ボランティア保険加入受付事務及び連絡調整を行うとともに、市民からの問い合わせ等に対応した。

【ボランティア保険・共済受付状況（兵庫県社会福祉協議会管轄分）】

保険種別	市民活動災害共済	天災危険補償	行事用保険	合計
件数	159件	5件	65件	229件
加入者数	4,994人	37人	5,881人	10,912人

【ボランティア保険受付状況（全国社会福祉協議会管轄分）】

保険種別	ボランティア活動保険	ボランティア行事用保険	福祉サービス総合保障	合計
件数	12件	17件	16件	45件
加入者数	152人	226人	1,163人	1,541人

⑤ボランティア活動の支援

ア. 神戸市社会福祉協議会ボランティア基金 ボランティアグループ活動助成

ボランティア基金を活用した市内のボランティアグループに対する助成制度を運営し、申請グループに対し助成を行った。（当該制度は市・区間の助成金の不均等の緩和や助成制度の無い区への補完、草の根グループの支援を目的として、令和2年度より区ボランティアセンター登録の団体にも対象枠を拡大）

申請団体数：87件 助成団体数：85件 助成額：1,006,000円

イ. 県民ボランティア活動助成

ひょうごボランティアプラザが実施する県民ボランティア活動助成について、市内で活動するボランティアグループからの申請受付を行った。

エントリー受付件数：669件 助成決定件数：566件

ウ. ボランティアルームの貸し出し

市・区社協登録のボランティアグループを対象に、ボランティア活動や会議に用いるための貸室を管理・運営した。加えて、市社協登録グループに対しては、会報の作成等に使用する輪転機を有料で貸し出しを行った。

エ. 各種ボランティア関係情報の収集・提供

区ボランティアセンターや各団体から寄せられたボランティア募集や講座情報についてこうべ市民福祉交流センター内のパンフレットラックや本会ホームページを

用いて発信した。

(2) 地域福祉活動の担い手の育成

①こべっこランド

子どもの遊びをサポートすることを目的に中高生・大学生ボランティアがイベントの運営補助を行った。

また、発達障がいセミナーの修了者が療育サポーターとして発達支援事業で活動した。(延べ活動人数 215 人)

②児童館

絵本の読み聞かせ、人形劇、将棋教室、学習支援等ボランティアとの協働により、魅力ある児童館活動の展開を図った。(延べ 6,507 人※学童保育コーナー含む)

③在宅福祉センター

デイサービスでの利用者との話し相手や行事のお手伝いなどのボランティアを受け入れた。(延べ 998 人)

④障害者スポーツ振興センター

多くの市民に障害者スポーツに関わっていただくとともに、地域で障害者スポーツの活動を推進していくため、神戸市障害者スポーツリーダーを養成し、大会や教室へ派遣した。(登録者 415 人、派遣延べ 556 人)

⑤点字図書館

点訳・音訳及びテキストデジターのボランティアを育成し、蔵書の製作やプライベートサービス・公的情報の点訳・音訳依頼等に、ボランティアグループと協働して取り組んだ。(185 人)

福祉人材育成のための各種研修事業の実施

(1) 市民福祉大学の運営

市民の福祉に関する理解と参加を促進し、ボランティアから社会福祉事業者まで、幅広い福祉人材の育成と資質の向上を図るために、市民福祉大学の運営を行った。

新型コロナウイルス感染症 5 類移行後、大半の研修を集合（対面）形式で実施した。一方で、遠隔地の講師や受講者の移動の負担の軽減を図るため、オンラインやオンデマンド研修にも引き続き取り組んだ。

《研修・講座の実施実績》

区 分	開催本数	開催日数	参加者	延べ参加者
市民対象講座	10	72 日	882 人	2,289 人
地域活動者対象研修	12	12 日	1,559 人	1,559 人
社会福祉事業従事者研修	49	60 日	1,522 人	1,704 人
区ボランティアセンター実施講座	79	447 日	1,867 人	6,570 人
合 計	150	591 日	5,830 人	12,122 人

《動画配信実績》

区 分	開催本数	動画配信日数	動画再生回数
市民対象講座	2	80日	1,961回
地域活動者対象研修	5	125日	647回
社会福祉事業従事者研修	1	28日	146回
合 計	8	233日	2,754回

《DVD 貸出実績》

区 分	貸出数
地域活動者対象研修	25枚

①市民対象講座の開催

ア. ボランティア講座等の開催

講座・研修名	実施日	参加者（延べ参加者）
手話ボランティア養成講座基礎編(昼クラス)	10月11日～2月28日 (20日)	26人(421人)
手話ボランティア養成講座基礎編(夜1クラス)	10月11日～2月28日 (20日)	26人(445人)
手話ボランティア養成講座基礎編(夜2クラス)	10月11日～2月28日 (20日)	26人(425人)
精神保健福祉ボランティア講座	9月5日～10月17日 (5日)	51人(221人)
視覚障がい者のためのガイドボランティア講座	10月4日・5日 (2日)	24人(48人)
合 計		153人(1,560人)

イ. 市民活動・啓発講座等の開催

講座・研修名	実施日	参加者
市民福祉セミナー① 「凸凹のためのおとなのところがまえ」 ～こどもと向き合うための工夫とヒント～	12月2日	522人
	(動画視聴期間 12月22日～2月22日)	動画再生 1,324回
市民福祉セミナー② 認知症の母と脳科学者の私 ～記憶を失っても「その人」らしくいられるのか?～	2月22日	163人
	(動画視聴期間 3月11日～3月31日)	動画再生 637回
地域人材育成研修① 「協働の作法を学ぼう！」	7月25日	15人
地域人材育成研修② 「会議の作法を身に着けよう！」	8月22日	11人

地域人材育成研修③ 「地域の課題を探り、解決する方法を学ぼう！」	9月22日	18人
合 計		729人
		動画再生 1,961回

②地域活動者研修の実施

ア. 民生委員・児童委員研修の実施

研 修 名	実施日	参加者
新任研修(9月委嘱者)	9月27日～10月26日 (動画視聴期間)	27人※
		動画再生 98回
		DVD貸出 3枚
新任研修(3月委嘱者)	3月4日～3月28日 (動画視聴期間)	19人※
		動画再生 35回
		DVD貸出 0枚
中堅研修	6月26日～7月26日 (動画視聴期間)	221人※
		動画再生 312回
		DVD貸出 16枚
児童委員研修	12月5日	502人
主任児童委員研修	9月25日～10月26日 (動画視聴期間)	63人※
		動画再生 160回
		DVD貸出 3枚
地区民児協会長・副会長研修	3月19日	246人
スキルアップ研修①(2コース)	8月3日・17日	163人
スキルアップ研修②(2コース)	12月8日・15日	132人
合 計		参加者 1,373人
		動画再生 605回
		DVD貸出 22枚

※動画配信による研修のため、参加者数欄にはアンケート回答数を記載。

イ. 心配ごと相談所相談員研修会の実施

研修名	実施日	参加者数
心配ごと相談所相談員研修	2月7日	75人

ウ. ふれあい給食会レクリエーション研修の実施

研修名	実施日	参加者数
ふれあい給食会レクリエーション研修	10月23日 (動画視聴期間 11月13日～23日)	111人
		動画再生 42回
		DVD貸出 3枚

③社会福祉事業従事者対象研修の実施

新任職員から管理職員までがキャリアビジョンを描き、必要な学びや成長を得ることを目指した研修を実施した。今年度は社会福祉施設の抱える課題として近年増加傾

向にある「メンタルヘルス」や「アンガーマネジメント」「愛着障害」をテーマとした研修を実施した。

	研 修 名	実施日	参加者（延べ参加者）
共通研修	アンガーマネジメント研修	6月21日	59人
	カスタマーハラスメント対応研修	9月26日	43人
	伝わる！記録作成研修	10月26日	53人
	リスクマネジメント研修	12月19日	52人
	接遇リーダー研修	1月15日	26人
	メンタルヘルスラインケア研修	1月16日	40人
	愛着障害の理解と支援～理解基礎編～	2月6日	68人
	愛着障害の理解と支援～支援実践編～	3月5日	73人
新任研修	ビジネスマナー研修（2コース）	4月17日・18日	40人
	社会福祉施設職員新任研修	1月23日	36人
	キャリアビジョンと職業倫理	6月6日	23人
	老人福祉施設職員研修	6月23日	16人
	児童福祉施設職員研修	7月4日	30人
	保育教諭・保育士研修（2コース）	6月8日・9日	64人
	障がい福祉施設職員研修	7月21日	31人
中堅研修	フォローシップと後輩指導研修	8月29日	39人
	老人福祉施設職員研修	3月12日	17人
	児童福祉施設職員研修	2月26日	13人
	保育教諭・保育士研修	1月30日	21人
	障がい福祉施設職員研修	1月26日	20人
	障がい者施設職員スキルアップ研修	2月13日・14日	18人（36人）
	更生福祉施設職員研修①	11月14日	15人
	更生福祉施設職員研修②	3月1日	10人
管理職・主任者研修	キャリアビジョンと職業倫理	7月11日	37人
	人材育成と指導法	2月15日・29日	37人（73人）
	BCP策定支援研修	9月11日	69人
	リーダーシップ向上研修	10月25日	16人
専門研修	介護技術講座（2コース）	8月2日・12月7日	72人
	医学講座	1月27日	28人
	調理技術講座（実習）	1月25日	12人
	調理技術講座（講義）	2月8日	15人
	発達障がい支援者基礎研修	9月28日	74人
	発達障がい支援者専門研修	2月28日	30人
	虐待防止研修（高齢・障がい）	11月17日・21日	115人

(2 コース+動画配信)	(動画視聴期間 12月15日～1月12日)	動画再生 146回
虐待防止研修(児童・保育)	11月7日	47人
労務・社会保険講座①	5月30日	19人
労務・社会保険講座②	9月21日	27人
社会福祉法人会計①<超初級編>	4月27日	20人
社会福祉法人会計②<基礎編>	7月28日	14人
社会福祉法人会計③<実践編>	11月2日	14人
社会福祉法人会計④<決算編>	2月2日	12人
面接相談スキルアップ(Aコース)	10月2日～ 10月30日(3日)	8人(23人)
面接相談スキルアップ(Bコース)	11月10日・ 12月8日(3日)	13人(39人)
面接相談スキルアップ(Cコース)	1月31日～ 2月28日(3日)	18人(53人)
スーパーバイザー養成講座	8月18日～ 9月29日(4日)	18人(70人)
合 計		1,522人(1,704人)
		動画再生 146回

④区ボランティアセンター研修事業

地域に根ざしたボランティアの育成や活動者のスキルアップを目的に、各区ボランティアセンターで各種研修を実施した。

区	講座数	延べ開催日数	参加者(延べ参加者)
東灘	5	33日	102人(641人)
灘	11	48日	257人(838人)
中央	5	41日	185人(598人)
兵庫	5	33日	137人(338人)
北	10	36日	206人(738人)
北神	9	34日	131人(627人)
長田	7	65日	149人(296人)
須磨	8	54日	241人(635人)
垂水	8	58日	183人(1,208人)
西	11	45日	276人(651人)
合計	79	447日	1,867人(6,570人)

⑤福祉ライブラリーの運営

福祉の専門図書、DVDなどを揃えた福祉ライブラリーを運営し、書籍・雑誌・資料・DVDの閲覧、視聴や貸出を行った。また、毎月テーマを決め、企画展示を行った。オンラインによる蔵書検索を充実させるため蔵書管理システムの入替えを行った。

・書籍収蔵数	8,215 冊
・DVD・ビデオ収蔵数	908 点
・資料収蔵数	971 冊
・雑誌収蔵数	873 冊 (19 タイトル)
・年間来室数	9,052 人
・貸出カード発行数	481 人 (新規 177 枚)
・書籍・DVD 貸出数	3,146 点

⑥研修に係る情報提供

研修に関する情報提供を行った。また、福祉ライブラリーニュースの刊行を行い、福祉関係の新作書籍、DVD 等について情報提供を行った。

(2) 認知症介護実践者等養成研修事業

①神戸市認知症介護研修(従事者対象研修)

認知症高齢者に対する介護サービスの充実を目的に、高齢者介護の指導的立場にある職員及び介護業務従事職員を対象に、厚生労働省通知に基づく研修を実施した。

新型コロナウイルス感染状況を考慮し、オンライン型研修・集合型研修を併用し実施した。他都市との情報共有によりオンライン研修の設備や技術等を発展させながら、より受講しやすい環境設備を図った。

研修名	内 容	開催日程・修了者数
認知症介護実践者研修	認知症高齢者の介護実務者を対象とした認知症介護に関する実践研修	①5月25日～8月18日 (集合)48人 ②8月1日～10月19日 (集合)48人 ③9月5日～11月29日 (集合)26人 ④11月14日～2月6日 (集合)46人
認知症介護実践リーダー研修	介護実務者の指導的立場にある者を対象とした指導者養成研修	10月16日～1月11日 (オンライン・集合)・27人
認知症介護サービス事業開設者研修	認知症介護を提供する事業所代表者を対象とした基本的な知識及び介護サービス事業の運営に必要な知識修得のための研修	11月8日、11月14日 (オンライン・集合)5人
認知症対応型サービス事業管理者研修	認知症介護を提供する事業所管理者等を対象とした適切なサービスの提供に関する知識修得のための研修	①6月29日、7月13日 (オンライン)・15名 ②11月8日、11月16日 (オンライン)・26人
小規模多機能型サービス等計画作成	小規模多機能型居宅介護支援事業所計画作成者を対象とした利用者及び事業の特	①7月5日、7月13日 (オンライン・集合)・13人

担当者研修	性を踏まえた事業計画を作成するために必要な知識・技術の習得のための研修	② 1月17日、1月24日 (オンライン・集合)・12人
認知症介護指導者養成研修	認知症介護実践研修を企画・実施するとともに介護保険施設等における介護の質向上、地域資源の連携体制構築の推進等に必要な能力を身につけ、地域全体の介護サービスの充実を図ることを目的に養成	①6月5日～8月4日 (集合・オンライン) 受講者なし ②8月28日～10月27日 (集合・オンライン) 受講者なし ③12月4日～2月9日 (集合・オンライン) 受講者1名
認知症介護指導者フォローアップ研修		①11月2日～11月22日 (オンライン) 受講者なし ②11月6日～11月10日 (集合) 受講者なし

②神戸市認知症研修(市民対象研修)

ア. 認知症サポーター養成講座 (195回・5,826人)

認知症に関する正しい理解を深め、認知症の人とその家族を支援する協力者を育成するため、市民や企業等を対象とした神戸市認知症研修の相談受付、講師調整等を行った。また、市内の各区で研修を開催した。(289人受講)

③キャラバン・メイト養成研修

認知症サポーター養成講座の講師(キャラバン・メイト)の養成や、スキルアップ研修の実施、連絡会開催等により、研修内容の充実に努めた。

研修名	開催日程・受講者数	受講者数
キャラバン・メイト養成研修	9月8日	19人
認知症サポーター養成講座実施説明会	11月20日	13人

④若年性認知症研修

ア. 神戸市若年性認知症デイサービス・デイケア職員研修

デイサービスやデイケア等の職員の方に、若年性認知症の方へ支援するために必要な情報を提供し、若年性認知症の方の居場所拡大を目的にした研修。

対象者 市内デイサービス・デイケア、地域密着型サービス事業所職員

実施日 第1回研修：令和5年10月27日

実習：令和5年11月～令和6年1月

第2回研修：令和6年1月26日

参加者 第1回研修：29人

実習：10人

第2回研修：12人

イ. 神戸市若年性認知症支援者研修

市内支援者が若年性認知症の正しい理解をもち、若年性認知症の人が直面する

様々な課題を考え、どう支援に結びつけていくのかを考える機会として開催した。
対象者 市職員、あんしんすこやかセンター職員、えがおの窓口職員、認知症疾患医療センター職員、認知症初期集中支援チーム職員、障害者相談支援センター職員、計画相談支援事業所職員

実施日 令和6年2月26日

参加者 87人

情報発信の充実

(1) ホームページの機能拡充・強化

行事、イベントなど本会事業の最新情報を発信した。(ページ閲覧回数 454,220 件/年)
市民福祉大学では、ヒューマンサービスコースにおいて、ブログを活用して講座の特色、内容や受講生の感想を発信することにより、広く市民の受講を促した。

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震への対応状況では、募金の実施状況や災害ボランティア・支援団体向けの情報提供として随時最新情報を提供した。

なお、こべっこランドでは、ホームページ上で貸室の予約ができるようシステム化し、利便性の向上を図った。インスタグラムの情報発信では1,700人以上のフォロワーを集めた。

(2) ソーシャルネットワークサービス(SNS)を活用した情報発信

Facebook や YouTube を活用した本会事業や地域活動情報の発信を行った。
また、YouTube においては内外に向けたオンライン研修や説明等にも活用した。

【Facebook 年間利用状況】 記事投稿件数 46 件、記事閲覧回数 12,562 回

【YouTube 年間利用状況】 動画投稿件数 30 件、動画視聴回数累計 8,655 回

※限定公開分含む

(3) 情報紙「きずな・KOBE」の発行

市民に親しまれる福祉の情報紙として、「きずな・KOBE」を発行した。多くの市民の目に触れるよう金融機関や病院等へ配布し福祉啓発に努めた。

年1回(令和5年12月発行、計13,000部)

(4) 機関紙の発行

- ・「神戸市ファミリー・サポート・センター通信」(1回)
- ・「福祉ライブラリーニュース」(3回、18,500部)
- ・「児童館だより」(月1回、各児童館で発行)
- ・「学童保育だより」(各児童館、各学童保育コーナーで随時発行)
- ・各在宅福祉センターで発行する機関紙「すずらんだより」「サルビアだより」「まのしんようネット」「こすもんレター」「なでしこホット通信」「スマイルなでしこ」
- ・「神戸市障害者スポーツ振興センターだより」(2回、各1,500部)
- ・「点字図書館だより」(6回、各 墨字版 274 部、点字版 189 部、デジ版 121 部)

(5) 各種の行事・講座の案内、パンフレット等の発行

- ・「こべっこランド NEWS」(7回 245,500部)
- ・各所属が開催した各講座案内等

ミッション2 くらしに寄り添う

地域福祉ネットワーク事業・生活困窮者支援

(1) 地域福祉ネットワーク事業の推進

①「地域生活課題への対応と地域での支え合いのしくみづくり」

区社協に配置している地域福祉ネットワークカーが、くらし支援窓口と連携しながら、様々な生活課題の解決・支援に向けて、地域住民組織と関係機関のネットワークを構築しながら、地域での支え合いのしくみづくりを進めた。

(生活課題への支援延べ回数：11,660回 前年度比：828回増)

(支援世帯数：2,909世帯 前年度比：335世帯増)

②「地域福祉ネットワーク事業」における区社協支援の推進

地域福祉ネットワーク事業に関わる職員が相互に連携し、情報を共有するための「地域福祉ネットワーク事業担当者連絡会」を開催した。市・区社協の連携と役割分担のもと、より効果的に事業を展開した。

本会善意銀行の活用により緊急的な食糧の購入・備蓄を行い、区社協からの要請に応じて食糧提供を行う「食のセーフティネット事業」を実施した。(支援回数：20回)

そのほか、生活に困窮する方や留学生、大学生、ひとり親世帯等に対し、セブンイレブン・ジャパン及びその他企業、団体から寄贈された食料品や生活必需品を活用して支援を行った。

③地域福祉ネットワーク事業分析・調査の実施

地域福祉ネットワーク事業の充実と体制強化を目的に、各区社協へ外部の学識経験者によるヒアリングを行い、客観的な事業分析・調査を実施した。

④身近な地域での「居場所」づくり

社会的な孤立を背景として、生活課題を抱える市民を支援することを目的に、各区で、地域とのつながりや役割を感じられる居場所や、就労に向けた体験の場づくりをすすめた。居場所の実際の進め方や効果等の情報共有を行い、区の特徴を活かした居場所を全市で行った。

区	事業名	開催場所	開催日時
東灘	お役立ち隊	ボランティアルーム	毎週水・金曜日
灘	トゥーリートゥーリー	灘区役所	毎週水曜日
	ほっとウイズ	南八幡会館	第2・4金曜日
中央	あおい製作所	市営磯上住宅集会所	毎週水曜日
兵庫	さんぽみちクラブ	区役所内会議室等	第3水曜日
	社会とつながるはじめての一步ツアー	区内事業所	年4回
北	ふらっとホーム	本区：区役所会議室	第3水曜日
		北神：ふれあいの里おくっちょ	第1水曜日
	ふらっとホーム「作業プログラム」	本区：北区役所 会議室 北神：北神区役所 会議室	それぞれ月2回
	ふらっとカフェ	ふれあいの里おくっちょ等	不定期
長田	ぺだる	ボランティアルーム	毎週金曜日
須磨	コスモスのたね	地域活動支援コーナー	第2木曜日
垂水	ひきこもりの方の家族の居場所	カフェ「iiyo」	第1木曜日
	いかなご倶楽部	垂水区役所	第4火曜日
西	家族の会	コミュニティカフェ Rico	不定期

⑤ “コロナ禍”の影響を受けた人々を支援する特別緊急支援事業

特別緊急支援として助成した財源を活用した事業を実施し、コロナ禍の影響を受けた個人や地域活動の支援に取り組んだ。

ア. 就活応援プロジェクト

新型コロナウイルス感染症に伴い、離職を余儀なくされ、再就職や転職を目指す生活困窮者や、ひとり親等に相談窓口を通じて、就職活動に必要な衣類(スーツやカバン等)の貸し出しを実施主体のNPO 法人と行った。

【協働団体】1団体

イ. こうべオレンジカフェ（認知症カフェ）活動応援事業

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた「こうべオレンジカフェ」登録団体へ、活動再開と活動継続支援を目的に活動助成を行い、認知症の人とその家族を支える地域づくりを推進した。

【助成団体数】7件

(2) 生活困窮者の自立・社会的孤立への対応

社会的な孤立を背景とする生活困窮者の自立に向けた生活支援を推進するために、区社協と各区役所に設置されている「暮らし支援窓口」とが連携し、関係機関や地域住民等とのネットワークによる支援体制を構築し、生活課題の把握や解決に取り組んだ。

また、新たに兵庫県社協より受託した「社協における生活困窮者支援体制強化事業」を通じて、「新型コロナウイルス特例貸付」の借受人で、今もなお生活困窮状態が続く方への支援強化にも区社協や行政と連携し取り組んだ。

(3) 生活福祉資金貸付

生活に不安を抱えた低所得、障害者及び高齢者世帯の方々に、資金の貸付と合わせて必要な相談支援を行う「生活福祉資金」について、実施主体である兵庫県社会福祉協議会との連絡調整を行い、申請窓口となる区社協の支援を行った。相談対応を行う区社協では、生活課題解決に向け、地域福祉ネットワーク事業をはじめとする区社協事業との複合的な支援や、区に設置されているくらし支援窓口と連携した支援を行った。

また、新型コロナウイルスの影響を受け減収となった方を対象とした「新型コロナウイルス特例貸付」の償還（返済）に関し、返済が困難な借受世帯に対し、償還に関する手続き支援を各区社協で行った。

増加・複雑化する生活福祉資金の相談対応を支援するため、市社協では区社協の資金担当者を対象とした連絡会議を定期的に開催し、情報共有や課題の集約を行い、必要に応じ兵庫県社会福祉協議会に対し要望調整を行った。

貸付種別	相談件数	貸付決定件数	貸付額
教育支援資金	11,246 件	511 件	323,181,600 円
福祉資金	7,865 件	68 件	7,575,400 円
緊急小口		63 件	4,499,000 円
総合支援資金	395 件	2 件	500,000 円
新型コロナウイルス特例貸付関連 (償還等に関する問い合わせ等)	1,827 件		

(4) ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業

経済的に厳しい状態にあるひとり親家庭の自立促進を支援することを目的に、神戸市からひとり親家庭高等職業訓練促進給付金を受ける世帯を対象として、看護師や介護福祉士等の資格を取得するための養成機関に入学する際の準備金（上限 50 万円）及び取得した資格を活かして就職する際の準備金（上限 20 万円）の貸し付け（5 年間の就労により償還が免除）を行った。

貸付種別	申込件数	貸付実施件数	貸付額
入学準備金	2 件	2 件	1,000,000 円
就職準備金	10 件	10 件	2,000,000 円
計	12 件	12 件	3,000,000 円

(比較 令和 4 年度実績)

貸付種別	申込件数	貸付実施件数	貸付額
入学準備金	10 件	10 件	4,940,000 円
就職準備金	17 件	17 件	3,400,000 円
計	27 件	27 件	8,340,000 円

児童就学・次世代育成支援

(1) 児童福祉基金を活用した児童就学支援

① 唐川修学助成金による施設入所児童への高校修学助成

児童養護施設、母子生活支援施設に入所中の児童に対し、高校に進学する際の入学

一時金等の助成を行った。

令和5年度	19件	2,290,000円	令和4年度	20件	2,420,000円
-------	-----	------------	-------	-----	------------

②民間社会福祉団体への事業助成

市域を対象とする児童健全育成事業に対し、助成を行った。

令和5年度	12件	1,160,000円	令和4年度	11件	930,000円
-------	-----	------------	-------	-----	----------

③生駒大学入学一時金給付事業

児童福祉施設、母子生活支援施設に在籍中の児童、または里親家庭に委託されている児童に対し、大学に進学する際の入学一時金として1名につき30万円を給付した。

令和5年度	4件	1,200,000円	令和4年度	9件	2,700,000円
-------	----	------------	-------	----	------------

④「生駒温子」児童福祉事業助成

次世代を担う児童の健全育成とすべての児童が幸福に成長できる環境づくりを推進するために、民間福祉団体が実施する事業・活動への助成を行った。そのうち公募助成では、こどもと大人の交流事業や子育て支援事業などの事業に対して助成した。

令和5年度	5件	1,050,000円	令和4年度	12件	2,260,000円
-------	----	------------	-------	-----	------------

ひまわり奨学金

経済的な理由により修学困難な私立高校に在籍する生徒の支援を目的に神戸新聞厚生事業団が実施する「ひまわり奨学金」事業に対して助成を行った。

令和5年度	2,400,000円	令和4年度	2,400,000円
-------	------------	-------	------------

⑤かごめ奨学金助成

児童養護施設から自立した大学生の大学院進学を援助することにより、大学院生が学業に専念できるよう奨学金を給付した。

令和5年度	1件	350,000円	令和4年度	1件	490,000円
-------	----	----------	-------	----	----------

⑥SOCIO-ROOTS 事業助成

三菱電機 SOCIO-ROOTS 基金からの寄付を活用し、発達が気になる子ども達を対象に家族や地域への支援を含めた発達支援を行う事業所において、支援者の人材育成・啓発活動を目的とした研修に対して助成を行うこととしていたが、令和5年度の実績はなかった。

令和5年度	0件	0円	令和4年度	1件	60,000円
-------	----	----	-------	----	---------

(2) 善意銀行を活用した児童就学支援

児童養護施設、母子生活支援施設に入所中の児童に対し、専修学校等に進学する際の入学一時金等の助成を行った。

令和5年度	4件	1,200,000円	令和4年度	6件	1,800,000円
-------	----	------------	-------	----	------------

(3) 次世代育成・障害者社会参加支援事業助成

児童福祉基金、障害者福祉基金を活用して、次世代育成支援及び障がい者の社会参加支援を目的としてバスを利用した事業に対して、バスの利用料金の一部を助成した。

【事業実績】 施設・団体 142台 助成金額 2,836,060円

権利擁護に関する取り組み

(1) 安心サポートセンター

①権利擁護全般に関する相談

認知症等高齢者や知的・精神障がい者などの判断能力が十分でない方が、生活の中で受ける権利侵害や財産管理に関する不安や困り事などについて、精神保健福祉士や社会福祉士などの専門相談員が相談に応じた。また、弁護士による法律相談を実施した（月2回）。

		令和5年度	令和4年度
電話・面談等相談		1,619件	1,303件
内訳	認知症高齢者	393件	394件
	知的障がい者	85件	86件
	精神障がい者	949件	637件
	不明等	192件	186件
権利擁護法律相談		29件	27件

②障がい者あんしんネットワーク事業

精神障がい者の人権や権利を擁護するため、市内の社会復帰施設や障害福祉サービス事業所、精神科病院の入・通所者等を対象に、日常生活上の悩みや疾病や障がい、施設等での生活上の問題などについて相談に応じた。

	令和5年度	令和4年度
相談件数（※）	545件	203件

※相談件数は、権利擁護全般に関する相談1,619件に含まれており、再掲。

③日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事業）

判断能力が十分でないなどの理由により日常生活に支障のある認知症等高齢者や知的・精神障がい者を対象に、①福祉サービスの利用に関する情報提供や利用支援、②生活に必要な預貯金の払出・預入及び日常的な金銭管理、③預貯金通帳や有価証券等の貸金庫での預かり等の支援を実施し、定期的な訪問による見守りを実施した。

ア. 相談・調査・契約状況

【相談・調査の状況】

	令和5年度	令和4年度
相談受付件数（※）	695件	741件
調査申込件数	236件	224件

※相談受付件数は、権利擁護全般に関する相談1,619件に含まれており、再掲。

【契約の状況】

		令和5年度	令和4年度
当該年度末契約件数		612件	574件
（うち当該年度新規契約件数）		139件	125件
内 訳	認知症高齢者	275件	269件
	知的障がい者	123件	112件
	精神障がい者	189件	169件
	その他（高次脳機能障害等）	25件	24件
当該年度解約件数		101件	121件
当該年度末契約累積件数		2,729件	2,590件

イ. 成年後見制度への移行促進

加齢や病状の進行等により成年後見制度の利用を必要とする利用者が、日常生活自立支援事業から成年後見制度へ適切に移行できるよう、成年後見移行促進員を1名（週1回）配置し、成年後見支援センターや関係機関・団体等と連携しながら、適切な制度移行を進めた。

【成年後見移行促進員活動実績】

	令和5年度	令和4年度
相談件数	211件(29ケース)	212件(32ケース)
後見移行件数	8件	15件

ウ. 広報

日常生活自立支援事業の利用促進を図るため、地域団体等を対象に出張説明を実施した。また、関係機関等を対象に個別相談会付き出張説明会を実施し、支援者向け相談の手引きの配布を行うなど利用につなげるための取り組みを行った。

出張説明会 17件（うち、個別相談会実施2件）

④権利擁護相談支援の体制づくり

地域共生社会の実現を目指す動きの中で、権利擁護支援機能の充実と身近な相談支援の体制づくりが求められているため、社協職員として必要な権利擁護の視点や知識の習得、権利擁護支援部と区社協の連携強化を目的として法人内研修を実施した。

ア. 基礎研修（入職3年以内の法人職員対象）

実施日：令和6年2月8日（木）

内 容：講義「権利擁護と意思決定支援」

講師：武庫川女子大学心理・社会福祉学部社会福祉学科 教授 與那嶺 司氏

参加者：41名（会場20名・オンライン21名）

イ. 実践研修（区社協地域福祉ネットワーク事業担当者等と権利擁護支援部職員対象）

実施日：令和6年1月25日（木）

内 容：事例発表（区社協と日常生活自立支援事業の連携事例）

グループワーク（事例を通じた学び、支援現場での課題等の意見交換）

参加者：29名

⑤福祉施設向け財産管理監査サービス事業

入所者財産を管理している高齢者福祉施設を対象に、施設入所者が安心して財産管

理を託し、施設にとっても社会的信頼を確保することができるよう、①財産管理に関する相談、②公認会計士による監査サービスを実施した。

本事業の利用施設は平成 22 年度の 16 施設をピークに年々減少したため、本事業の必要性について改めて見直しを行うため、令和 4 年度に利用法人への聞き取りを行った。その結果、各法人の会計監査人等による監査が可能であるため、令和 5 年度末をもって事業を終了した。

	令和 5 年度	令和 4 年度
当該年度利用件数	6 件	6 件

⑥高齢者くらしの充実資金貸付事業（リバースモーゲージ）

自宅に住み続けながら、その住まいを不動産担保として生活資金融資を受けた高齢者世帯（1 件）を対象に、利子貸付を行った。※平成 21 年度末で新規契約の受付終了。

⑦こうべ安心サポート委員会の開催

弁護士、医師、公認会計士、福祉関係者、学識経験者等から構成されるこうべ安心サポート委員会及び専門部会を開催し、本会が実施する権利擁護事業に関する審査・監査及び相談、助言等を受け、適正に事業を実施した。

ア. こうべ安心サポート委員会（1 回）

議題：専門部会の活動報告、成年後見支援センターの活動状況、
安心サポートセンターの活動状況等

イ. 安心生活支援部会・成年後見判定部会（12 回）

議題：成年後見の市長申し立てに対する助言 67 件

ウ. 権利擁護事業部会

・事業運用審査委員会（6 回）

議題：日常生活自立支援事業に関する審議 7 件、助言 9 件

・監査委員会（1 回）

議題：日常生活自立支援事業・法人後見事業の利用者の財産管理監査

エ. 市民後見部会（8 回）

議題：成年後見支援センターの運営、市民後見人養成研修、市民後見活動等に関する助言

⑧神戸シルバー法律研究会事務局事業

高齢者・障がい者等の権利擁護に関する調査・研究及び成果の発表を行うことを目的とした「神戸シルバー法律研究会」の事務局事業を実施した。

会 員：弁護士、医師、福祉関係者、行政関係者等 34 人（令和 5 年度末）

活動実績：月例会 10 回、運営委員会 2 回、シンポジウム 1 回

シンポジウム「後見と医療の協力～本人の最善の利益のために～」

開催日：令和 6 年 2 月 17 日（土）

参加者：204 名（会場 85 名・オンライン 119 名）

(2) 神戸市成年後見支援センターの運営

成年後見制度に関する相談や申立書類の書き方、手続に関する説明や助言など申立支援等に関する相談援助を行った。令和5年度はオンライン相談を新設し、6件の利用があった。また、専門的知識を要するケースについては弁護士、司法書士、社会福祉士の専門職が相談に応じた（2職種1組でそれぞれ月2回）。

		令和5年度	令和4年度
電話・面談等相談		1,572件	1,423件
相談内容	成年後見制度（全般）	748件	740件
	任意後見制度	140件	152件
	申立方法について	185件	151件
	申立支援の依頼	29件	26件
	権利侵害等の相談	18件	12件
	後見人（親族等）の困りごと	14件	18件
	制度に対する苦情・困りごと	75件	36件
	センター業務について	363件	288件
成年後見専門相談（再掲）		85件	62件

①神戸市市民後見人の選任と活動の監督支援

第三者後見の新たな担い手として、判断能力が十分でない人の生活を一般市民が社会貢献として支援する市民後見人を養成する「第9期市民後見人養成研修」を開催した（受講者11名）。

また、市民後見人候補者を対象に研修等を実施し、制度に関する知識の習得や市民後見人同士の交流を促進し資質向上に努めた（市民後見人候補者登録者84名）。

受任調整により神戸家庭裁判所へ市民後見人候補者を推薦し、後見活動開始後は監督人として継続的に支援するとともに、後見活動を終了した市民後見人候補者9名に対し、事務局長感謝状を贈呈した（受任調整会議7回、評価会議1回）

<市民後見人の活動状況>

- ・市民後見人候補者の総選任件数(累計)108件(うち令和5年度中の選任件数6件)
- ・市民後見人の活動件数24件(うち本会の後見監督23件、専門職複数保佐1件)

市民後見人に対する相談対応件数	相談の内容（重複あり）				
	報告書作成	財産管理 金銭管理	対象者の理解と支援	終了・辞任について	選任までの支援
3,175件	238件	173件	163件	49件	142件
	医療	福祉・介護サービス	所得・収入・債務	居住・地域との連携	センター事業等について
	64件	41件	12件	41件	2,494件

②市民後見人候補者による地域における相談機能・広報機能の充実の取り組み

ア. 成年後見制度の利用手続き相談室

各区社協の運営協力を得て、市民に身近な区役所で成年後見制度の相談に応じる「成年後見制度の利用手続き相談室」を全区で開催し、市民後見人候補者を相談員として派遣した（相談員48名/年間相談件数113件/開設日144日）。

また、西区では、区社協の協力のもと岩岡出張所、新たに玉津支所でも相談室を

開催した（玉津支所：10月・12月・2月 相談件数6件）

イ. 市民後見人による広報啓発モデル活動

市民後見人が地域のつどいの場に出向き、オリジナル動画とチラシを使って 成年後見制度の紹介をした。令和5年度はモデル活動として、灘・中央・西区で6回活動し、18名の市民後見人が参加した。

③神戸市と金融機関との権利擁護に関する連携協定にかかる事業の推進

センターから金融機関窓口へ相談の取り次ぎを行った（2件）。みなと銀行の職員研修で成年後見制度について講義した（令和5年9月2日）。

④法人後見事業（法定後見・任意後見）

ア. 法定後見

判断能力が十分でなく他に適切な法定後見人が得られない人を対象に、財産管理や身上保護等を行うため、法人として後見活動に取り組んだ。現在は、市民後見人への引継ぎを前提とした案件のみ新規受任をしている。

また、成年後見支援センターで養成する市民後見人が成年後見人等に選ばれる際には、市民後見人の後見活動の助言や指導を行うために、家庭裁判所から後見監督人の受任要請を受け、後見監督人に就任し市民後見人の活動を支援した。

イ. 任意後見

概ね60歳以上の高齢者、知的・精神障がい者で契約にあたり意思能力の確認ができる人を対象に、将来自分で判断できなくなったときに備え、本人と本会との間で任意後見契約を締結し、①定期訪問の実施、②判断能力が十分でなくなった場合は任意後見監督人選任の申立て、③任意後見人として財産管理や生活に必要な事務全般の代行を行った。なお、事業開始当初と比べ任意後見に取り組む専門職等が多くなっており、本会では新規の契約は締結していない。

	類型	令和4年度	令和5年度		
			新規	終了	年度末合計
法定	後見	7	1	3	5
	保佐	2	1	0	3
	補助	0	0	0	0
	監督	23	6	6	23
任意	後見	1	0	0	1
	契約	0	0	0	0
合計		33	8	9	35

⑤広報・啓発

ア. 成年後見セミナーの開催

実施日：令和5年8月26日（土）

内容：「これからの成年後見制度について ～本人の想いを大切に～」

講師 同志社大学 教授 永田 祐 氏

参加者：206名（会場85名、オンライン121名）

イ. 設立10周年記念誌を作成

センター設立から10年を振り返る記念誌を作成、配布した。

ウ. 出張説明会への講師派遣

行政や高齢・障害分野の関係機関、福祉関係団体等から講義依頼を受け、講師を派遣した。(延べ31件、うち出前トークは9件)

エ. ホームページの運営およびパンフレットの配布

成年後見制度の利用が必要な人が適切に相談に繋がるようホームページに情報掲載した。また、パンフレットのほか新たな啓発グッズ(クリアファイル・ボールペン)を作成して配布した。(パンフレット等配布7,751部)

介護保険サービス等の提供

(1) 長田在宅福祉センターの移転等

昭和 62 年 7 月に開設した長田在宅福祉センターのデイサービス事業であるが、築 60 年を超え施設の老朽化が激しく事業継続が困難のため令和 5 年 6 月に事業閉鎖した。

なお、居宅介護支援事業所ならびに地域包括支援センターについては令和 6 年 2 月にピフレ新長田へと移転し事業継続をしている。

(2) デイサービス事業【介護保険事業】

西では、認知症の方を対象にした「認知症対応型通所介護事業」を実施した。

①通所介護事業（デイサービス）の利用状況

	実利用者数(人)	延べ利用者数(人)	実施日数(日)	1日当り利用者(人)	定員(人)
一般（長田）※R5.6 閉所	47	356	65	5.4	40
認知症対応型（西）	33	2,565	256	10	12

②通所介護事業におけるボランティア登録・活動者数 (人)

	長田	西	合計	前年度
登録者数（実活動者数）	14	33	47	37
延べ活動者数	135	224	359	961

(3) 居宅介護支援（えがおの窓口）事業【介護保険事業】

要介護者の自立支援を図るため「居宅介護支援事業（えがおの窓口）」を実施し、介護サービス計画（ケアプラン）の作成等を実施した。(件)

	北	長田	須磨	西	合計	前年度
ケアプラン作成	2,834	2,950	1,428	1,682	8,894	7,839
要介護・要支援認定調査	498	553	307	358	1,716	1,936

(4) 交流事業の実施【介護保険事業外】

西在宅福祉センターでは、デイサービスの利用に繋がっていない地域の認知症高齢者を対象に、認知症対応型デイサービスで実施するプログラムを体験する機会を提供するとともに、ご家族が認知症や介護について職員や認知症サポーター等ボランティアスタッフと話し合える交流事業として、月 1 回ほのぼのカフェを開催した。

(5) 地域包括支援センター（あんしんすこやかセンター）事業

公募により、高齢者の身近な総合相談窓口として事業を神戸市から受託し、地域の特性に応じた地域福祉活動を実施した。

(センター名称)

鈴蘭台あんしんすこやかセンター、真野真陽あんしんすこやかセンター
たかとりあんしんすこやかセンター、平野西神あんしんすこやかセンター

(実施事業)

介護予防マネジメント、包括的・継続的なケア体制の確立
総合相談支援・権利擁護支援

①相談受付実績

(件)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
介護相談	629	688	632	1,037
入所・退所相談	76	9	62	140
認知症に関する相談	89	68	252	133
実態把握	511	170	113	87
介護保険外サービス	225	20	13	102
基本チェックリスト	20	23	13	11
権利擁護	112	167	145	18
認定申請	602	519	367	269
困難事例対応	103	157	116	38
その他	142	58	98	35
合計	2,509	1,879	1,811	1,870
前年度	1,740	2,036	1,770	1,815

②ケアマネジメント相談対応実績

(件)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
介護予防支援・介護予防ケアマネジメント	508	266	233	416
包括的・継続的ケアマネジメント	230	146	298	218
合計	738	412	531	634
前年度	768	310	351	476

③介護リフレッシュ教室・地域ケア会議等

(開催回数)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
介護リフレッシュ教室	5	5	4	6
地域ケア会議	2	2	2	1
地域主催の会議等	53	65	53	53
ケアマネ研修会	4	12	3	1

④介護予防支援事業【介護保険事業】

要支援者の自立支援及び介護予防を図るため「介護予防支援事業」を実施し、介護予防ケアマネジメントを実施した。

(件)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
給付管理総数	5,054	4,164	3,930	3,800
内作成件数	3,362	2,298	3,080	2,929
内委託件数	1,692	1,866	850	871
受託件数	58	0	0	24
合計(給付管理・受託作成件数)	5,112	4,164	3,930	3,824
前年度	4,917	5,837	3,802	3,532

⑤地域における支えあい活動の推進と地域包括ケアシステムの構築

認知症になっても住み慣れた地域で自分らしい人生を最後まで続けることができるように関係機関と連携し、地域での支えあい活動の推進と地域包括ケアシステムの構築を目指して、次の取り組みを行った。

ア. 鈴蘭台あんしんすこやかセンター

ア) 神戸親和大学内でのふれあい喫茶の開催 (9回・124人)

対象：地域の高齢者

内容：今年度は9回開催。地域のデイサービス機関のトレーナーや神戸市リハボーイズOTによるフレイル予防体操を開催。特に「笑いヨガ」に関心が高く、男女を問わず参加者が多かった。手芸など手作業プログラムより体操を好まれる傾向がみられた。

イ) 地域ケア会議の開催 (1回・参加者数35人)

開催日：令和5年9月8日(金)

テーマ：『よりよい「オレンジ110番」にするために』

参加者：民生委員・児童委員、区社会福祉協議会、サービス事業者、その他(郵便局、きた障害相談支援センター、薬局、量販店「オレンジ110番」協力店)

内容：地域の声から数年間話し合いを重ねてきた「オレンジ110番」事業が、令和5年度より活動開始。事業所も含め拡大に向けて具体的な話し合いができた。(認知機能低下により家に帰れない方への対応)グループワークと発表①この地域でオレンジ110番活動を進めるには、どんなことが必要か。オレンジ110番活動を継続する上で、良いアイデアを出し合う。

成果：令和5年4月から鈴蘭台駅周辺12事業所でスタートした「オレンジ110番」活動、住民への周知拡大・認知症の方への声掛け行動など、活動の理解が深まり、より具体的な活動を広げる方向性を共有できた。

ウ) 個別ケア会議の開催 (1回・参加者数28人)

開催日：令和5年6月9日(金)

テーマ：「民生委員の見守り対象外となり、地域から孤立した方を日頃の見守りの中でどう支えるかを考える」

参加者：民生委員・児童委員、区社会福祉協議会、その他(友愛ボランティア)

内容：事例をもとに困りごとを考え、日頃の見守りの中でできること、また何があればよいかを考え共有した。

成果：日頃の見守りの中で、声かけの重要性、いつもと違うという直感を大切にすることが大切であることが分かった。また、地域でできることを行い、公的サービスなどにつなげていく必要があることを理解することができた。

エ) 認知症等高齢者声掛け訓練

オ) 認知症サポーター養成講座

開催日：令和5年12月8日(金)

参加者：(38名) 民生委員・児童委員、友愛訪問ボランティア、区社会福祉協議会、その他(キャラバンメイト1名、医療介護サポートセンター1名、オレンジ110番協力事業所2名、見学で神戸北町あんしんすこやかセンター職員1名)

<p>内 容：認知症サポーター養成講座（講師：医療介護サポートセンター）</p> <p>認知症等高齢者声かけ訓練（5～6人のグループに分かれ、6グループがそれぞれ拠点におられる認知症役の方に声を掛け、オレンジ110番にお連れする訓練）</p> <p>成 果：認知症について理解を深め、声かけ訓練を実際に体験することにより、実際に心配な高齢者に声をかける難しさを知ることができた。</p>
<p>わ)地域の介護施設内でのふれあい喫茶の開催</p> <p>なごみ（鈴蘭台自治会館）</p> <p>ボランティアの高齢化とコロナ禍により活動休止状態であったが再開のめどがたち、次年度より3年ぶりに実施予定。</p> <p>カトレアカフェ（介護老人福祉施設カトレア鈴蘭台）</p> <p>令和5年度も、感染症への配慮ため施設内への立ち入りができず喫茶は開催できなかった。喫茶再開もしくは地域のために何かできないか模索していくという話あいができ、実行可能な形を検討中。</p> <p>レガートクラブ（既存の喫茶店の一部を借りて実施）</p> <p>毎月1回開催することができた。区社会福祉協議会による成年後見についての講義をおこなった。</p>
<p>か)出張相談窓口の継続実施（鈴蘭台駅ビル ベルスト鈴蘭台3階）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出張相談会の開催（毎月第3金曜日） ・開催回数 12回 相談人数 延べ32名 <p>あんしんすこやかセンターの役割を聞きたいというニーズも多い。</p> <p>電車で移動する圏域外の住民からの相談も多く、圏域外のあんしんすこやかセンターへつないだ。その中で、若年性認知症の夫について相談を受け、新規申請し、若年性認知症相談支援センター相談員や居宅介護支援事業所のケアマネジャー、こころの医療センター相談員と連携したケースなどがあった。</p>
<p>き)フレイル予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OKクラブ（小部東こけないクラブ）毎月1回小部東地域福祉センターで体操を行った。 ・小部地域福祉センター 毎月1回ふれあい体操 ・鈴蘭台地域福祉センター 神戸市リハボーイズによるフレイル予防講義（30名参加） ・ウエルシア鈴蘭台西町店 神戸市・ポピュレーションアプローチ「チャレンジ！KOB E健幸プログラム～みんな で体操・健康『貯蓄』！～」プログラム（5名参加） ・レガートクラブ 令和6年1月10日（水）認知症サポーター養成講座開催（9名参加） 令和6年2月14日（水）成年後見人制度の説明会（10名参加）
<p>く)オレンジカフェ立ち上げ支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年6月14日（水）「オレンジカフェ“あい”」オープン 住民グループや地域のグループホーム、薬局が、いつまでもいきいき暮らせる町づくりのために認知症の方やその家族が集える場所の必要性を感じ、グループホーム内のスペースを提供していただき、センターが立ち上げの後方支援を行った。

・令和6年3月6日(水) 「シルバーカフェ“えがお”」オープン
地域住民やウエルシア神戸鈴蘭台西町店のエリアマネージャーが、認知症になっても気軽に悩みを打ち明けられる場所の必要性を感じ、ウエルシアが場所を提供していただき、センターが立ち上げの後方支援を行った。

㌘) 広報啓発(フレイル予防のチラシ配布)

- ・ベルスト鈴蘭台(駅ビル)で配架(年6回 総数800部)
- ・駅前金融機関ATM前でチラシ配布(年金支給日に消費者被害啓発活動に合わせて啓発を行った。(年6回 総数600部))
- ・地域の防災訓練、地域ケア会議、事業者連絡会、民生委員連絡会、個人など様々な機会
で広報を行うことができた。

イ. 真野真陽あんしんすこやかセンター

㍑) 地域ケア会議の開催(1回・参加者数19名)

テーマ: 梅ヶ香地区のつどいの場について

参加者: 給食会の世話人、民生委員・児童委員、老人会、区社会福祉協議会、えがおの窓口、サービス事業者、病院、区役所等

内容: 梅ヶ香地区で行っていた給食会の会場が、建物の老朽化で取りこわされたことで場所がなくなっている。コロナ禍以降はお弁当を配っていた。地域の事業所から会場の提供の申し出があり、給食会の再開に向けて話し合った。

また、参加者それぞれの立場で集いの場再開に向けて意見を出し合った。家に閉じこもりがちの方、なかなか出る機会が少ない高齢者に対して声かけを行い参加者を募ることで方向性を決めることができた。

・個別地域ケア会議(1回・参加人数11名)

参加者: 自治会、民生委員・児童委員、居宅介護支援事業所、サービス事業者、区役所等
判断能力が低下した高齢者の自宅での生活を支えるために地域支援者とケアマネージャーとの経緯確認と具体的な支援方策の検討した。

本人の思い、これまでの経緯のすり合わせとあんしんサポートセンターが金銭管理を行うにあたって日常生活での金銭管理について、具体的な支援内容の確認(役割分担)ができた。

㍑) 認知症等高齢者声かけ訓練の実施

圏域の真陽小学校と真野小学校で地域の方も参加して開催。参加人数は合計100名。

㍑) 認知症サポーター養成講座2回開催。圏域の真陽小学校と真野小学校6年生の児童向けに行なった。参加者76名。

㍑) 高齢者向け情報誌「まのしんようネット」の発行

(発行回数4回。延べ発行部数12,000部)

内容: 地域ケア会議の参加者で「まのしんようネットメンバー」を結成し、地域高齢者の消費者被害等の情報や介護予防の情報などを発信した。

㍑) 災害時要援護者防災訓練への協力

東南海地震に備え、地域団体が実施する防災訓練において、要援護者名簿の整理や案内作りなどの支援を行った。(真野地区防災訓練参加)

<p>か)出張相談窓口の開設</p> <p>住民が相談しやすい身近な場所で窓口を開設した。</p> <p><志里池介護相談室></p> <p>場 所：志里池地域福祉センター（21回・来訪者26名 そのうち相談件数5件）</p> <p><真野介護相談室></p> <p>場所：真野地域福祉センター（23回・相談件数8件）</p> <p><地域の行事></p> <p>地域行事にて介護相談の実施。</p>
<p>き)予防介護教室「転ばん塾」の後方支援</p> <p>主 催：民生委員・児童委員</p> <p>参加者：地域住民</p> <p>場 所：志里池地域福祉センター</p> <p>毎月開催。体操や脳トレーニングや消費者被害などの情報提供。</p> <p>12回開催。参加人数延べ277名。</p>
<p>く)地域の居場所づくり「絵手紙の会」と「健康マーじゃん」開催</p> <p>参加者：地域住民</p> <p>場 所：真野地域福祉センター</p> <p>高齢者自立支援拠点「おちゃのま」閉鎖に伴いおちゃのまで開催していた集いの場を地域福祉センターの場所を移して開催2年目。計24回開催。延べ113名参加。</p>
<p>け)地域行事等での広報活動</p> <p>4月花まつり、5月真陽フェスティバル、7月ワールドサマーフェスティバル、8月真野盆踊り、2月真野ふれあいもちつきにて広報誌や虐待防止ネットワークの案内を配布して広報活動を行った。</p> <p>また真野シルバークラブの誕生会で7月、11月、2月に特殊詐欺などの寸劇を行い、消費者被害の啓発活動を行った。</p> <p>また民生委員との小地域支え合い連絡会にて権利擁護等の勉強会を開き権利擁護等の広報活動を計5回行った。</p>
<p>こ)福祉授業（総合学習）の実施（延べ4日間）</p> <p>内 容：福祉体験として高齢者疑似体験、車いす体験、アイマスク体験を行った後に、高齢者が通うデイサービスについての理解を深め、利用者との交流会を実施した。また圏域のもう一つの小学校真野小学校でも福祉学習を実施した。児童に対して地域の支え合い活動についての啓発につながった。</p> <p>対 象：真陽小学校4年生(29人参加) 真野小学校5年生(14名参加)</p> <p>(ウ)の通り真陽小学校と真野小学校6年生に認知症サポーター養成講座を行った。</p>

ウ. たかとりあんしんすこやかセンター

ア) 地域ケア会議の開催

〈若宮地区/1回開催/参加者 37 人〉

テーマ：高齢化率の高い地域に住む住民が、防災について学び、話し合うことで、自助・共助について理解し地域の防災意識を高める

参加者：民生委員・児童委員、友愛訪問ボランティア、地区防災福祉コミュニティ、小学校、中学校、居宅介護支援事業所、サービス事業所、障害者相談支援センター、医療介護サポートセンター、警察、消防、区役所、区社会福祉協議会

内容：令和4年度からのシリーズ第3回目として、同じ地区の民生委員児童委員協議会を担当するセンターと共催で開催。最終回のテーマ「災害についての備え・避難についてそれぞれの立場でできる事」を話し合い、地域の防災についての意識を高めることができた。

〈だいち中部地区/1回開催/35 人〉

テーマ：地域支援者が高齢者を見守る上で、認知症発症により関わりが難しくなった人への声掛けや対応を考える

参加者：民生委員・児童委員、友愛訪問ボランティア、居宅介護支援事業所、障害者相談支援センター、三師会、医療介護サポートセンター、警察、区役所、区社会福祉協議会

内容：地域診断をふまえ、地域課題となっているケースを地域から選択してもらい、典型事例でグループワークを行った。関係機関・専門職からは制度の活用等について、地域からは本人理解やあいさつ等で声をかけ続けるなど、排除しない姿勢の大切さを改めて確認することができた。

イ) ふれあい喫茶、給食会等の運営支援

ふれあい喫茶や給食会等の後方支援を行い、地域コミュニティの活性化を図った。

〈ふれあい喫茶〉(24 回 ・延べ人数 354 人)

〈給食会〉(11 回 ・延べ人数 214 人)

〈つどい場〉(12 回 ・延べ人数 113 人)

・つどい場等に参加している高齢者を対象に、センター広報、フレイル予防、感染予防、消費者被害、防災、熱中症・食中毒予防等について広報啓発を行った。

ウ) 認知症理解のための広報活動

・認知症高齢者声かけ練習会の実施(1回開催/参加者 11 人)

地域のつどい場を利用し開催した。参加者から「声のかけ方の難しさ」や「認知症患者は不安が大きい」など認知症への理解を得ることができた。

・神戸市認知症サポーター養成講座(1回開催/参加者 50 人)

対象者：若宮地区の住民他

若宮地区で地域ケア会議を開催した際に、地域から認知症理解の必要性があるという声が上がリ、来年度の声掛け訓練の前段階として開催した。

・「だいち DE フェスティバル」に参加(主催：だいち・太田学校応援団)

対象者：小学生・中学生とその保護者約 70 人

<p>認知症クイズを用い、小学生とその親に認知症について広報啓発を行った。</p>
<p>エ) オレンジカフェ立ち上げ支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年3月9日(土)「Me オアシス」オープン <p>センター対応の総合相談より、認知症の妻を介護している夫婦の事例が複数あり、同じ悩みを持つ人達が思いを共有し、情報交換できる場が必要であると考えた。圏域にある元民生委員が経営する喫茶店に協力を打診したところ、理解を得ることができ、センターが立ち上げの後方支援を行った。</p>
<p>カ) 高齢者向け広報紙「赤灯台」の発行(発行回数4回・延べ発行部数4,160部)</p> <p>区内あんしんすこやかセンター共催で、つどい場の紹介、災害の備え、熱中症や感染予防について情報を発信した。また、自分の人生の終末について考えてもらうきっかけとして、「わたしの未来ノート」を作成し広報啓発を行った。</p>

エ. 平野西神あんしんすこやかセンター

<p>ア) 地域ケア会議の開催(1回・参加者数37名)</p> <p>テーマ: みんなで考えよう! みんなで繋がろう! ～育てよう 地域の輪～</p> <p>参加者: 民生委員・児童委員協議会、歯科医師会、サービス事業所、調剤薬局、障害者相談支援センター、居宅介護支援事業所、区社会福祉協議会</p> <p>内容: 昨年度の地域ケア会議の内容の振り返り・今年度の取り組みについて報告を行った後、グループワーク形式で地域ケア会議を行った。グループ毎に参加者それぞれが把握している地域の現状(活動や暮らし等)について情報を共有した。地域活動や高齢者の暮らしを豊かにするため「あったらいいなと思うこと」「実際に実現するためにどうすれば良いか」の具体策について、地域住民、医療・介護・福祉の専門職がそれぞれの立場でできることを話し合った。</p>
<p>イ) 支えあう地域づくりの活動</p> <p>1. 認知症サポーター養成講座を開催</p> <p>① コープこうべ西神 日時: 令和6年1月9日(火) 参加者: (18名)</p> <p>② 平野町民児協 日時: 令和6年1月26日(金) 参加者: (15名)</p> <p>内容: ① コープ西神委員② 平野民児協の協力を得て、地域住民・民生委員対象に認知症サポーター研修を開催した。どちらの講座も参加者から「参加してよかった。」との感想があり、参加者の認知症高齢者に対する意識の高さがうかがえた。</p> <p>2. コープこうべ 地域繋がるミーティング参加</p> <p>内容: 令和6年1月9日(火)にコープ西神委員対象に認知症サポーター研修を開催した。また、3月27日(水)「コープこうべ地域繋がるミーティング」にも参加し、地域の高齢者を支援する取り組みについて地域団体と協議した。</p>
<p>ウ) センター広報活動を実施</p> <p>内容: 地域活動(自治会、老人会、いきいき百歳体操、喫茶、コープ繋がるミーティング、給食会など)に出向き、センター広報、フレイル予防啓発、地域の活動紹介(いきいき百歳体操等)を行い、顔の見える関係づくりに努めた。</p>
<p>エ) 地域活動の後方支援を実施</p> <p>内容: 昨年度、圏域全体で立ち上げた「つどい場サポートチーム」にて、活動を始動。</p>

- ①口腔機能検査：オーラルフレイル予防の普及・啓発として、西区歯科医師会理事の дайこく 歯科医院協力の下、いきいき百歳体操 4カ所で口腔機能検査を実施。オーラルフレイル予防の意識づけを行うと共に、地域住民と関係機関とのネットワークづくり、センター広報に努めた。
- ②体力測定：フレイル予防の普及・啓発として、圏域内のいきいき百歳体操全 7カ所で体力測定を実施。体力測定を通して、フレイル予防の意識づけを強化すると共に、地域住民、関係機関との助け合いのネットワークを強化することができた。

⑥地域支え合い推進事業

地域のひとりぐらし高齢者等の見守り体制づくり (件)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
見守り相談実績	31	28	24	23
地域支え合い活動	55	62	7	37
小地域支え合い連絡会開催回数	13	20	33	6

⑦シルバーハウジング生活援助員派遣事業

生活相談・安否の確認・一時的な家事援助・緊急時の対応等の高齢者向公営住宅入居者の生活支援事業を実施した。

真野真陽	西尻池高層住宅 (戸数 83 戸)
生活相談 51 件	シルバーハイツ東尻池 (戸数 15 戸)
安否確認 4,198 件	真野ふれあい住宅 (戸数 17 戸)
緊急対応 136 件	

認知症支援事業

(1) こうべオレンジカフェ登録事業

市内の認知症カフェの設置を推進し、市民への広報を行った。(登録数 40 件)

“コロナ禍”の影響を受けた人々を支援する特別緊急支援事業を財源としたこうべオレンジカフェ活動応援事業助成を実施した(申請数 17 件)

(2) 神戸市高齢者安心登録事業

認知症などで行方不明の心配がある高齢者の情報を事前に登録し、関係機関および兵庫県警とであらかじめ共有した。登録者が行方不明となった場合は早期発見・早期保護のため、地域の協力者に対し電子メールで捜索協力を呼びかけた(24 時間 365 日対応)。

	登録者数	捜索協力者数	メール配信依頼数
令和 5 年度	2,533 人	768 人	25 件

(3) 若年性認知症の方への支援

既存の制度だけでは、生活ニーズの充足が困難な若年性認知症の方への支援を行うため、月 1 回本人同士、家族同士が安心して、自己実現や情報交換ができる居場所として交流の場「ソレイユ」を実施した。

開催日：毎月 1 回実施。

4 月 15 日、5 月 19 日、6 月 10 日、7 月 12 日、8 月 19 日、9 月 23 日、10 月 21 日、11 月 20 日、12 月 16 日、1 月 18 日、2 月 17 日、3 月 23 日

会場 : こうべ市民福祉交流センター・しあわせの村 等で実施

内容 : ご本人・家族の自己実現、情報交換の場。レクリエーション、勉強会、参加者の希望を聞きながら、プログラムを考える。

参加者 : 延べ 203 名

(4) 神戸市介護保険施設入所相談センターの運営

①事業内容

- ア. ケアマネジャーからの依頼に基づき施設入所の緊急性が高い人の受け入れができる特別養護老人ホームを紹介
- イ. 緊急性判定委員会において施設紹介の対象となるが、入所施設の空きがない場合、施設入所までの間利用できる特別養護老人ホームの緊急ショートステイの紹介
- ウ. 施設入所等に関するケアマネジャーからの相談への適切な助言

②相談件数 26 件

障害者地域生活支援拠点の運営

(1) 障害者相談支援センター

障がい者及び障がい児が住み慣れた地域で、障害福祉サービス等を利用して、その有する能力及び適性に応じて自立した日常生活又は社会生活が営むことができるよう支援するとともに、地域の障がい者等の福祉に関する各般の問題について、障がい者等、及びその介護を行う者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言等を行った。

また、区域レベルでは、センターと自立支援協議会との共催による啓発講座やネットワークの構築、地域の事業所との意見交換、その他地域課題に合わせた個別支援会議等を行った。

①基本相談

(件)

相談内容	いそがみ	きた	しん ながた	たかとり	ひらの せいしん
福祉サービスの利用等に関する支援※	4,602	5,081	6,569	8,447	4,916
障害や症状の理解に関する支援	192	120	105	193	28
健康・医療に関する支援	621	938	980	942	481
不安の解消・情緒安定に関する支援	680	440	162	174	258
保育・教育に関する支援	104	119	19	31	13
家族関係・人間関係に関する支援	243	510	225	182	238
家計・経済に関する支援	65	96	116	35	72
生活技術に関する支援	229	331	367	230	276
就労に関する支援	60	96	54	24	32
社会参加・余暇活動に関する支援	6	10	2	2	10
権利擁護に関する支援	67	103	70	121	32
その他	838	3,816	3,243	4,555	1,499
合 計	7,707	11,660	11,912	14,936	7,855

※福祉サービスの利用等に関する支援の中には、次の調査等を含む

(件)

調査等内容	いそがみ	きた	しん ながた	たかとり	ひらの せいしん
障害支援区分認定調査	35	34	44	31	33
支給決定更新等に係る勘 案事項調査	280	240	272	409	240
移動支援サービス利用に 係る聴き取り等	10	9	19	3	16

②指定特定相談支援事業者・指定障害児相談支援事業者としての相談契約件数 (件)

支援内容	いそがみ	きた	しん ながた	たかとり	ひらの せいしん
計画相談支援	25	28	22	55	36

③指定地域相談支援 (件)

支援内容	いそがみ	きた	しん ながた	たかとり	ひらの せいしん
地域移行	0	1	2	0	1
地域定着	0	1	0	0	0

④その他

・福祉啓発講演会の実施 (須磨区)

障がいの有無にかかわらず多様な個性が輝く地域共生社会の実現に向けて、地域住民や福祉従事者等への障害理解の推進のために、梅田 靖規氏(一般社団法人 神戸ダルクヴィレッジ)をお招きし、依存症に対する理解を深める講演会を開催した。

実施日：令和5年10月28日(土) 13:30~15:00

場所：須磨区役所2階 健康教育室

参加者：40名

・児童館との交流会 (北区)

障がい理解・啓発を目的にひよどり台児童館の利用者(児童)と北区障害者地域生活支援拠点の利用者(障害者)との交流会を企画した。

実施日：令和5年8月16日(水) 13:30~14:30

場 所：ひよどり台児童館

参加者：20名

(2) 見守り支援事業

障がい者等が地域で安心して自立した生活を継続できるよう、関係機関と互いに連携して、地域全体で障がい者等を見守る体制の整備を進めた。また、災害時の要援護者の支援体制を構築するための取り組みを始めた。(件)

内 容	中央区	北区	長田区	須磨区	西区
見守り総件数(延べ)	97	151	148	1,335	214
支援へとつないだ件数	9	12	14	1	1
ネットワーク構築のための会議等	5	2	1	9	1
緊急対応	0	0	0	0	0

(3) 地域生活支援拠点コーディネート事業 (件)

内 容	中央区	北区	長田区	須磨区	西区
緊急受入(短期入所)相談総数※	9	12	9	8	4
日中活動の場の提供	5	11	3	8	10
区内の短期入所施設及びグループホームの状況把握	1	4	1	2	0
災害時要援護者支援	1	9	4	3	1

※1回の入所のために複数日・回に渡る調整を行った場合でも1とする。

(4) 地域支援機能強化事業

全市レベルでは、入所施設へのヒヤリングで見えてきた課題に対し、リーフレットの作成、施設への出張研修、施設からの退所支援の実例を用いた研修の実施を行った。各区では、区の実情に合わせて、グループホーム等他機関との連絡会や、研修の実施を行った。その他、体験型グループホーム事業の利用調整、神戸市精神障害者地域移行・地域定着推進事業が主催する会議への参加等を行った。

(5) 自立支援協議会事務局の運営

障がいの有無に関わらず誰もが住み慣れた地域で安心して生活が続けられるよう、各区内の福祉施設、教育、医療、行政等の関係機関とともに、障がい者の自立、社会参加、広報・啓発を目的に地域団体や関係者等と連携し「区自立支援協議会」の運営を行った

(6) 生活介護・短期入所

北区、須磨区、西区で、生活介護と短期入所事業を行った。また、中央区は、障害者地域生活支援拠点の相談部門を担い、生活介護及び短期入所を担当する社会福祉法人神戸明輪会と共同で運営した。長田区についても相談部門を担い、生活介護及び短期入所は、既存施設である社会福祉法人みらいが運営する「みらいおもいけ園」と連携した。

①生活介護

ア. 利用状況

介護を必要とする方に、昼間、入浴、排せつ食事の介護等を行うとともに、創作活動や生産活動(工賃として作業訓練費の支払い有)などの機会を提供することにより、地域での生活を支援した。

また、施設や保護者の元からの自立等にあたって、地域生活への移行をしやすくするための体験の場としての役割も果たした。

開設時間：9:00～16:00

定員：20人

休業日：土・日曜日 年末年始 (人)

	北区	須磨区	西区
利用登録者数 (令和6年3月31日現在)	33	64	48
延べ利用者	3,534	3,030	3,528

イ. 重点取り組み事項

ア) 障害者地域生活支援拠点事例報告会の開催

拠点設置から5年が経過し、この間複合的な課題を抱える障がい世帯に対し、地域の方や福祉関係者と障害福祉サービスなどを活用し包括的な支援を行ってきた支援の振り返りを行った。学識経験者からの講評ならびに、当事者による特別講演会により、改めて障害者への支援としての拠点のあり方や社会的意義を福祉関係者と共有した。

実施日：令和6年2月21日(水) 13:30～17:30

場所：こうべ市民福祉交流センター2階

特別講師：株式会社山口達也 代表取締役 山口 達也 氏

参加者：200名

イ) 委員会の各種運営(感染症・虐待・BCP)

法令改正に基づく感染症対策委員会、虐待防止委員会の立ち上げ、ならびに各種マニュアル作成、研修を行った。また、昨年度作成した自然災害発生時における業務継続計画に基づいた机上訓練や見直しに加え、新たに感染症における業務継続計画を策定した。

ウ) 共生型サービスの創出

65歳を迎える利用者や特定疾病による要介護認定を受けた40歳以上の利用者が、通いながれた事業所でサービスを継続利用できるよう、介護保険制度に基づく共生型通所介護事業所として指定を受け、高齢障がい者へのサービス提供を実施した。

(西：2人、須磨：2人)

ウ. 各在宅重点取り組み

アート&ワーク活動等で個性を活かした表現活動を行い、アート作品や陶芸、商品づくりなどの制作活動を実施。また、展示会への出展を行うなど社会参加活動を実施し、複数の展示会で入選した。

ア) 北区

- ・北区共同募金委員会と連携し、あかはねマルシェや募金百貨店プロジェクト等に参加し、利用者の生産品を積極的に販売した。
- ・地域の児童館の子どもたちと協働で缶バッチを制作するなど交流し、地域への啓発活動を行った

イ) 須磨区

- ・地域のイベント、自立支援協議会が主催している区役所等での販売会に定期的に

参加。地元住民や近隣の他施設の利用者との交流も行っている。

- ・短期入所において、月1回程度、夜間看護師を配置し、要医療的ケア重症児者の受け入れを行い、人工呼吸器の管理、気管切開部の処置、たん吸引、経管栄養に対応している。(神戸市要医療的ケア重症児者短期入所利用支援加算該当)

ウ) 西区

- ・生活介護の外出行事として「淡路島日帰り旅行」を実施し、観覧車や外食、お土産選びなどで社会参加の機会を図った。
- ・「食事介助のスキルアップ研修」を実施し、食事介助の際の正しい姿勢やポジション、嚥下の仕組み等を学び、各利用者の食事環境の見直し・改善に取り組んだ。

②短期入所

障がい者の地域での生活を支えるため、短期入所を行った。

また、介護者の急な入院等で在宅生活が困難な障がい者を、緊急で受け入れた。

定員：5人(別に緊急利用床1床)

休業日：年中無休

(人)

	北区	須磨区	西区
利用登録者数	99	197	212
延べ利用者	2,009	2,094	2,828
緊急利用者数・利用日数	7人/32日	9人/85日	3人/14日

障がい者のスポーツ・文化の振興

(1) 広報・普及啓発

市民の障がい者スポーツへの理解促進を図るため、広報・普及啓発活動を積極的に展開した。

①「神戸市障害者スポーツ振興センターだより」の発行

事業の紹介や障がい者スポーツに関する情報を掲載し、公的施設や関係団体等に配布した。(2回、各1,500部)

②ホームページによる情報提供

事業の紹介や神戸市の障がい者スポーツに関する情報、神戸市障害者スポーツ振興センターだより、スポーツ用具貸出のご案内などの情報をホームページで提供したほか、各種大会やイベントへの参加申込をホームページ等で受け付けた。

③障がい者スポーツを紹介する啓発パネルなどの展示

障がい者スポーツを紹介する写真・パネルを花時計ギャラリー、さんちか通路アドウィンドー、こうべ市民福祉交流センター、しあわせの村(手のひらギャラリー)に展示した。

④出前教室「聞いて！見て！やってみて！」の実施

市内の小学校・中学校・高等学校からの依頼に基づき、当センターの障害者スポーツ指導員を派遣し、障がい者スポーツの楽しさを体験していただくとともに、障がい者理解することの大切さを伝えた。

パラバレーボール(座位)2回、ボッチャ1回

⑤障害者スポーツ指導員やパラスポーツチームの派遣による啓発

市内の小学校、市内の大学、体育館、大型商業施設に当センターの障害者スポーツ指導員やパラスポーツチームを派遣し、障がい者スポーツが体験出来る機会を提供した。(小学校・大学各4回ずつ、磯上体育館1回、イオンモール神戸北1回、プレンティ西神中央1回)

⑥地域展開事業「とんで！はずんで！たのしいスポーツ」の開催

障がい者が地域で身近にスポーツを楽しめるよう、地域の児童館や学校、施設に向き、年中～成人までの障がいのある方を対象に、リズム体操、トランポリン、サーキット運動などの軽運動プログラムを提供した。

期 間：令和5年6月25日(土)～3月10日(日)

場 所：こべっこランド、いぶき明生・青陽須磨・青陽灘高等・灘さくら・友生特別支援学校、しあわせの村

参加者：全12回、のべ154人

⑦パラスポーツまつり

障害者スポーツ振興センターが主催する障がい者スポーツ教室の無料体験会をはじめ、車いすバスケットボール、ボッチャ、ローンボウルズ等のパラスポーツ体験会を実施した。

期 間：令和5年8月21日(月)～8月26日(土)

場 所：こうべ市民福祉交流センター1F、体育館

参加者：516人

⑧パラスポーツ王国 HYOGO&KOBE “夢プロジェクト 2023”

(兵庫県・兵庫県障害者スポーツ協会・こうべ市民福祉振興協会と共催)

障がい者スポーツの普及と身近な場所で障がい者スポーツに取り組める環境作りに向けた啓発を目的として開催した。パラリンピック種目を含む 19 競技が一堂に集まり、パラスポーツを見るのも初めてという人も、様々な競技にふれて学び、体験できる機会を提供した。また、KOBE2024 世界パラ陸上競技選手権大会組織委員会と連携し、競技用車いすを体験できるブースも設置した。

実施日：令和5年11月3日(金・祝)

場 所：しあわせの村

参加者：延べ(各ブースの参加者数計)4,462人

関係者：350人(競技団体190人ほか)

⑨地域行事等への支援・連携

区役所や関係団体が主催する障がい者スポーツの体験行事と連携し、地域における啓発と人材育成を支援した。

【灘区地域協働課】

行事名：ボッチャ体験会

実施日：令和6年2月11日(日・祝)

場 所：王子スポーツセンター体育館

(2) 障がい者スポーツに関する調査研究事業

全国障害者スポーツ協議会等への参画を通して(公財)日本パラスポーツ協会や各種障がい者スポーツ団体等との情報交換や連携を深め、神戸市の障がいのある方がスポーツの場や機会を増やすための研究、企画を行った。

(3) 神戸市障害者スポーツリーダーの養成及び派遣

多くの市民に障がい者スポーツに関わっていただくとともに、地域で障害者スポーツの活動を推進していくため、神戸市障害者スポーツリーダーを養成し、大会や教室へ派遣した。(登録者415人)

①初級パラスポーツ指導員養成講習会の開催

(神戸市スポーツ推進委員、スポーツクラブ指導者、教員を主な対象として実施)

実施日 第41回：令和5年7月1日(土)～7月16日(日)のうち5日間

第42回：令和6年1月13日(土)～1月18日(日)のうち4日間

受講者 第41回：16人(修了者16人)

第42回：23人(修了者23人)

場 所 こうべ市民福祉交流センター

②神戸市障害者スポーツリーダースキルアップ講座の開催

内 容：ボッチャ審判講習会

実施日：令和6年2月25日(日)、3月24日(日)

場 所：市民福祉スポーツセンター

受講者：19人

③神戸市障害者スポーツリーダーの派遣（のべ 556 人）

派遣行事名	開催日等	派遣人数
第 31 回全国身体障害者野球大会	5 月 13 日(土)～14 日(日)	33 人
第 62 回神戸市障害者スポーツ大会（フライングディスク）	5 月 21 日(日)	16 人
第 62 回神戸市障害者スポーツ大会（水泳）	5 月 28 日(日)	12 人
第 62 回神戸市障害者スポーツ大会（陸上競技）	6 月 4 日(日)	29 人
皇后杯 第 32 回日本女子車いすバスケットボール選手権大会	8 月 5 日(土)～6 日(日)	27 人
パラスポーツ王国 HYOGO&KOBE 夢プロジェクト 2023	11 月 3 日(金・祝)	34 人
第 36 回神戸市障害者ふれあいロードレース大会	12 月 2 日(土)	27 人
第 18 回神戸市パラバレーボール大会（座位）	3 月 3 日(日)	25 人
障害者スポーツ教室（脳血管障害者体操教室）	5 月～7 月、9 月～11 月、 1 月～3 月	208 人
障害者スポーツ教室（バドミントン教室）	6 月～8 月、1 月～3 月	145 人

(4) 障がい者スポーツ大会の開催

障がい者が、競技等を通してスポーツの楽しさを体験するとともに、市民の障がいに対する理解を深め、社会参加の推進に寄与するため、神戸市や障害者団体、競技団体等とともに各種障がい者スポーツ大会を開催した。

【主催】

①第 62 回神戸市障害者スポーツ大会の開催

特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」の予選会を兼ねて開催した。競技の進行は各競技協会の主管のもと、審判員を配置して行った。

種目	開催日	参加者・審判	開催場所
卓球	4 月 16 日(日)	身体障がい者：48 人 知的障がい者：111 人 精神障がい者：8 人 計 167 人 審判：82 人	中央体育館
ボッチャ	4 月 30 日(日)	肢体障がい者：9 人 計 9 人 審判：10 人	王子スポーツセンター (体育館)
フライング ディスク	5 月 21 日(日)	身体障がい者：38 人 知的障がい者：95 人 精神障がい者：26 人 計 159 人 審判：20 人	王子スポーツセンター (王子スタジアム)
水泳	5 月 28 日(日)	身体障がい者：23 人	市民福祉スポーツセンター

		知的障がい者：79人 精神障がい者：2人 計 104人 審判：30人	
陸上競技	6月4日(日)	身体障がい者：59人 知的障がい者：216人 精神障がい者：2人 計 277人 審判：125人	神戸総合運動公園 (ユニバー記念競技場)
5種目合計		参加者：716人 審判：267人	

②西日本パラバレーボール(座位)大会

実施日：令和5年6月10日(土)～11日(日)

場所：王子スポーツセンター(体育館)

参加チーム：4チーム31人

関係者：26人(パラバレーボール協会、神戸市障害者スポーツリーダー)

③第35回神戸市知的障害者フットサル大会の開催

実施日：令和5年9月16日(日)

場所：神戸総合運動公園(球技場)

参加チーム：12チーム

関係者：31人(神戸市サッカー協会ほか)

④第36回神戸市障害者ふれあいロードレース大会の開催

実施日：令和5年12月2日(土)

場所：神戸総合運動公園補助競技場およびその周辺

参加者：143人(身体障がい者4人、知的障がい者117人、精神障がい者3人、健常者19人)

関係者：112人(神戸市陸上競技協会ほか)

⑤第18回神戸市精神障害者バレーボール大会の開催

実施日：令和6年3月1日(金)

場所：王子スポーツセンター(体育館)

参加チーム：2チーム

関係者：6人(神戸市家庭婦人バレーボール連盟)

⑥第18回神戸市パラバレーボール大会(座位)の開催

実施日：令和6年3月3日(日)

場所：しあわせの村(体育館)

参加チーム：8チーム72人

関係者：33人(神戸市障害者スポーツリーダーほか)

【共催】

- ⑦第 17 回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会「車いす使用者の部」の開催
（兵庫県・兵庫県障害者スポーツ協会と共催）
実施日：令和 5 年 5 月 4 日（木・祝）
場 所：神戸総合運動公園ユニバー記念競技場
参加者：55 人（うち神戸市から 11 人参加）
関係者：107 人（兵庫県障害者スポーツ協会、神戸市陸上競技協会、兵庫障害者フライングディスク協会ほか）
- ⑧第 31 回全国身体障害者野球大会の開催（日本身体障害者野球連盟と共催）
実施日：令和 5 年 5 月 13 日（土）～14 日（日）
場 所：ほっともっとフィールド神戸、G7 スタジアム、若葉学園
参加チーム：16 チーム（284 人）
関係者：99 人（日本身体障害者野球連盟ほか）
- ⑨皇后杯 第 32 回日本女子車いすバスケットボール選手権大会の開催
（日本車いすバスケットボール連盟・日本パラスポーツ協会・日本バスケットボール協会と共催）
実施日：令和 5 年 8 月 5 日（土）～6 日（日）
場 所：神戸総合運動公園グリーンアリーナ神戸
参加チーム：5 チーム（78 人）
関係者：208 人（日本車いすバスケットボール連盟 35 人、兵庫県バスケットボール協会および市内高校バスケットボール部 100 人ほか）
- ⑩第 25 回全国シニア選抜車いすバスケットボール大会の開催
（日本車いすバスケットボール連盟・日本パラスポーツ協会・日本バスケットボール協会と共催）
実施日：令和 5 年 8 月 5 日（土）～6 日（日）
場 所：神戸総合運動公園グリーンアリーナ神戸
参加チーム：7 チーム（70 人）
関係者：208 人（日本車いすバスケットボール連盟 35 人、兵庫県バスケットボール協会および市内高校バスケットボール部 100 人ほか）
- ⑪第 6 回兵庫県障がい者サッカー交流会
県内の精神障がい者サッカー、アンプティ（切断障がい）サッカー、ブラインド（視覚障がい）サッカー、CP（脳性麻痺）サッカー、ろう者サッカー、知的障がい者サッカーの各 1 チームが集い、予め呼びかけた地域の健常者とともに、サッカーを通じて交流を行った。
実施日：令和 5 年 9 月 16 日（土）
場 所：しあわせの村 多目的運動広場
参加チーム：6 チーム（66 人）
関係者：20 人（神戸市サッカー協会、兵庫県サッカー協会ほか）

⑫' 89 フェスピック神戸大会記念日本身体障害者サッカー親善大会

1989年のフェスピック神戸大会の開催を機にわが国で初めて結成されたサッカーチームの当時の選手や関係者が国内各地から集い、市内の身体障害者サッカーチームの選手や健常者との交流戦を行い、交流を図った。

実施日 : 令和5年9月17日(日)

場 所 : しあわせの村 多目的運動広場

参加チーム : 6チーム (66人)

関係者 : 20人 (神戸市サッカー協会、兵庫県サッカー協会ほか)

⑬第18回水泳記録会の開催

市民福祉スポーツセンター利用者が、障がいの有無に関わらず参加して交流を深め、普段の練習の成果を試す場として、同センターの指定管理者である㈱COSPA ウェルネスと共催。

実施日 : 令和6年3月17日(日)

場 所 : 市民福祉スポーツセンター (プール)

参加者 : 70人

関係者 : 15人 (㈱COSPA ウェルネスほか)

(5) 障がい者スポーツ大会への選手派遣・参加助成

①特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」への選手派遣

個人6種目に出場し、金13個、銀11個、銅7個、計31個のメダルを獲得した。

開催期間 : 令和5年10月28日(土)~30日(月)

開 催 地 : 鹿児島県

派遣人員 : 選手31人、役員30人 (計61人)

②全国障害者スポーツ大会に向けての選手強化

対象種目の競技団体に選手の育成強化費(練習会場使用料、講師謝礼等)を助成した。5団体 計243,000円

③近畿ブロック予選会に向けての選手強化・参加助成

全国障害者スポーツ大会出場を目指す各障がい者スポーツ団体に、育成強化費のほか、近畿ブロック予選会への参加費や移動費を助成した。

育成強化費 : 5団体 計150,000円

参加費・移動費 : 2団体 計96,245円

- ・車いすバスケットボール競技近畿ブロック予選会
- ・知的障害者バスケットボール競技近畿ブロック予選会

大会名	開催日	開催地	参加者
精神障害者バレーボール競技近畿ブロック予選会	6月3日(土)	兵庫県	15人
車いすバスケットボール競技近畿ブロック予選会	6月3日(土) 4日(日)	大阪市	8人
知的障害者サッカー競技近畿ブロック予選会	6月4日(日)	堺市	17人
知的障害者ソフトボール競技近畿ブロック予選会	6月11日(日)	奈良県	16人
知的障害者バスケットボール競技近畿ブロック予選会	6月11日(日)	堺市	11人

④杭州 2022 アジアパラ競技大会への出場支援

杭州 2022 アジアパラ競技大会に日本代表として世界へ挑む神戸市の選手に激励金を支給した。

開催期間：令和5年10月22日(日)～10月28日(土)

開催地：中国・杭州

支援人数：6人(ローンボウルズ2人、パワーリフティング2人、パラバレーボール(座位)1人、水泳1人)

支援金額：計180,000円

(6) 障がい者スポーツ教室の開催・支援

障がい者スポーツ団体の登録制度を運用し、市内の障がい者スポーツ団体の活動内容をホームページで紹介するとともに、障害者スポーツクラブ連絡会の開催を通して、各団体の活動状況と課題に係る情報共有や意見交換を通して、その育成と支援を行った。

開催日：令和6年3月15日(金) 登録団体数 18団体

(7) 障がい者スポーツ教室の開催

①身体障がい児・者スポーツ教室の開催 (小計148人)

開催場所：市民福祉スポーツセンター (体育館・プール)

教室	開催日等		参加者
脳血管障がい者体操教室 (16歳以上)	I期 5月～7月	水曜日 10回	13人
	II期 9月～11月	水曜日 10回	16人
	III期 1月～3月	水曜日 10回	16人
ビームライフル教室 (16歳以上)(※)	前期 5月～7月	火曜日 10回	9人
	後期 9月～12月	水曜日 10回	9人
身体障がい者水泳教室 (16歳以上)(※)	前期 5月～7月	火曜日 10回	13人
	後期 9月～11月	火曜日 10回	17人
身体障がい児水泳教室 (3歳～高校生親子)	I期 5月～7月	金曜日 10回	4人
	II期 9月～11月	土曜日 10回	11人
	III期 1月～3月	金曜日 10回	4人
ダーツ教室 (16歳以上)(※)	前期 6月～7月	金曜日 10回	7人
	後期 11月～12月	土曜日 5回	8人
ブラインドテニス教室 (16歳以上)	9月～12月	金曜日 10回	4人

開催場所：しあわせの村

車いすテニス教室（16歳以上）（※）	8月～11月	日曜日6回	6人
ローンボウルズ教室（16歳以上）（※）	5月～9月	土・日曜日5回	11人

②知的障がい児・者スポーツ教室の開催（小計291人）

開催場所：市民福祉スポーツセンター（体育館・プール）

教室	開催日等		参加者
体操教室（16歳以上）	前期 4月～5月	金曜日10回	17人
	後期 9月～10月	金曜日10回	20人
水泳教室 （5歳～小学校3年生親子）	I期 5月～7月	土曜日10回	10人
	II期 9月～11月	火曜日10回	11人
	III期 1月～3月	火曜日10回	10人
水泳教室 （小学校4年生～6年生親子）	I期 5月～7月	水曜日10回	6人
	II期 9月～11月	水曜日10回	7人
	III期 1月～3月	土曜日10回	15人
水泳教室 （中学生～20歳）	I期 5月～7月	土曜日10回	21人
	II期 9月～11月	土曜日10回	22人
	III期 1月～3月	土曜日10回	27人
水泳教室 （16歳以上）（2部制）（※）	前期 5月～7月	土曜日10回	1部19人 2部11人
	後期 9月～11月	土曜日10回	1部19人 2部14人
体操教室 （中学生以上）	前期 5月～7月	金曜日10回	11人
	後期 9月～12月	水曜日10回	13人
未就学水泳教室（3歳～未就学）	1月～2月	土曜日5回	13人
体操教室（5歳～小学6年生）	前期 5月～7月	火曜日10回	7人
	後期 1月～3月	水曜日10回	11人
親子体操教室（3歳～就学前）	9月～12月	金曜日10回	7人

③障がい区分なしの教室の開催（小計116人）

開催場所：市民福祉スポーツセンター（体育館）

教室	開催日等		参加者
バドミントン教室（16歳以上）	前期 6月～8月	水曜日10回	29人
	後期 1月～3月	水曜日10回	30人
陸上競技教室	前期（4月～9月）	月1/ 木曜日5回	27人
	後期（10月～2月）	月1/ 木曜日5回	30人

（※）他団体へ委託して開催

(8) 世界パラ陸上選手権大会にオフィシャルスポンサーとして参画

東アジア初の「神戸 2024 世界パラ陸上選手権大会」の令和 6 年 5 月の開催にあたり、大会組織委員会と「シルバースポンサー」契約を締結し、大会ロゴマークの積極的な活用等を通して、大会の成功及びパラスポーツのさらなる普及に努めた。

(9) こうべ障害者音楽フェア 2023 ジョイフルコンサートの開催

障がいのある方やその家族に質の高い音楽を鑑賞していただくとともに、障がいのある音楽家の発表の場として、事業の趣旨に賛同された 11 の企業・団体からの協賛のもと、開催した。会場には車いす席と介助者席を設置し、聴覚障がい者のための要約筆記・手話通訳・磁気ループを配備した。17 回目となる今回は、障がいのあるピアニスト 2 名による上質なピアノの演奏と、今年で神戸のジャズが 100 周年を迎えたことを機に、プロのジャズグループ 1 組による心温まるジャズの演奏とコーラスを披露いただいた。

実施日：令和 5 年 12 月 21 日（土）

場 所：神戸新聞松方ホール 来場者 500 人

(10) 第 7 回こうべ障がい者芸術フェスタ HUG+（ハグ・プラス）展 2023 の開催

市内で芸術創作活動に取り組む障がい者から作品を公募し、芸術創作活動の発表の場として、展示環境が整った会場で応募作品 516 点を全て展示することを通して、文化芸術活動を通じた障がい者の個性と能力の発揮、社会参加の促進を図った。優秀作品は、事業の趣旨に賛同された 14 の企業・団体から協賛を得て顕彰し、最優秀賞受賞作品は、毎年、実行委員会で買い取り、こうべ市民福祉交流センターをはじめ外部への展示を行っている。

また、期間中は神戸 2024 世界パラ陸上選手権大会の特別展示を行い、大会の認知度向上を図った。

展示期間：令和 5 年 9 月 16 日（土）～9 月 23 日（土・祝）

場 所：県立美術館王子分館 原田の森ギャラリー 本館 2 階大展示室

表 彰 式：令和 5 年 9 月 23 日（土・祝）11：00～12：00

原田の森ギャラリー別館 4 階 401 号室

表 彰：最優秀賞 1 点、優秀賞 5 点、審査員賞 4 点、入選 10 点、
奨励賞 5 点 計 25 点

来 場 者：1,550 人

点字図書館の運営

(1) 蔵書及び貸出し状況

蔵書数	点字図書	3,514 タイトル	13,937 巻
	録音図書 テープ図書	5,335 タイトル	28,425 巻
	デージー図書	4,827 タイトル	4,827 巻
	テキストデージー図書	93 タイトル	93 巻
貸出し数 (自館蔵書)	点字図書	294 タイトル	1,115 巻
	録音図書 テープ図書	155 タイトル	867 巻
	デージー図書	2,424 タイトル	2,424 巻

(2) サピエ図書館データのダウンロード状況(自館蔵書データのダウンロード数)

点字	1,537 タイトル	5,707 人
録音	850 タイトル	33,524 人
テキストデージー	86 タイトル	2,493 人

(3) 今年度蔵書図書製作数

点訳	パソコン	106 タイトル	370 巻
音訳	デージー	73 タイトル	73 巻
テキストデージー		20 タイトル	20 巻

(4) 定期行物(雑誌)の貸出し

点字雑誌	15 タイトル	延 42 人、 529 冊
録音雑誌 テープ	0 タイトル	延 0 人、 0 巻
デージー	34 タイトル	延 373 人、 4,028 巻

(5) 他館との相互貸借

①他館への貸し出し

点字	209 タイトル (815 冊)	録音テープ	138 タイトル (765 巻)
		デージー	1,779 タイトル (1,779 巻)

②他館からの借り受け

点字	105 タイトル (416 冊)	録音テープ	20 タイトル (109 巻)
		デージー	7,928 タイトル (7,928 巻)
		一般 CD	18 タイトル (18 巻)

(6) 「サピエ図書館」情報サービス

①利用者に提供した情報(端末からのデータ取り出しを含む)

点字打ち出し 17 タイトル、8,438 ページ

(7) 定期行物等(雑誌)の製作

①点字(10種)

- ・新聞連載「イイミミ」、週刊誌ヘッドライン、パソコン IT ミニ情報、NHK みんなのうた、日経暮らしのミニ情報、ラジオ関西番組表、中医臨床、プロ野球全選手名鑑、新聞連載小説「陥穽」、「イン・ザ・メガチャーチ」

②録音(デイジー4種)

・今月の新刊本案内、f d、くすのき、正平調

(8) ボランティア養成講座の開催

コース	期 間	内 容	曜 日	講 師	回数	修了者
点訳	4月～3月	フォローアップ講習	第1・3木曜	点灯虫グループ	20回	19人
音訳	4月～3月	フォローアップ講習	第1・2火曜	くすのきグループ	23回	6人

(9) 中途失明者対象の点字講習会の開催

期 間	曜 日	内 容	講師	回数	受講者
通年	火曜 午前・午後	点字の読み書き訓練	職員・市視協	43回	延 313人

(10) 読み書きサービス、対面朗読サービス(通年)

名 称	曜 日	内 容	件数	備考
読み書きサービス	火曜・金曜午後	パンフレット、手紙等代筆・代読	98件	43回 実施
対面朗読サービス	随 時	小説、新聞等2時間	84件	84回 (要予約)

(11) プライベートサービス(個人依頼のあった物を点訳・音訳)

点訳 7件 873ページ 音訳(デイジー版) 4件 4巻
 テキスト化 1件 140ページ テキストデイジー化 2件(22冊) 5,847ページ

(12) 公的情報 (点訳) 13件 326ページ

(13) 機器に関する情報提供・貸出等

名 称	実施月	内 容	人数等
機器相談	4月	iPhone、パソコン、リンクポケット等	21人
	5月	パソコン、iPhone、スマートスピーカー等	13人
	6月	iPhone、PTR3、PTN3等	12人
	7月	iPhone、iPad、パソコン等	11人
	8月	iPhone、PTN2、PTN3等	11人
	9月	iPhone、PTN3、OCR等	10人
	10月	iPhone、パソコン、PTR3等	12人
	11月	iPhone、PTN3、点字ディスプレイ等	15人
	12月	パソコン、iPhone、iPad等	8人
	1月	iPhone、パソコン、リンクポケット等	18人
	2月	パソコン、iPhone、センスプレーヤー3等	17人
	3月	パソコン、iPhone、PTR2等	11人
	合 計		

PTN3=卓上型デイジー再生機、PTR3=卓上型デイジー録音再生機

リンクポケット=携帯型デイジー録音再生機、点字ディスプレイ=点字端末

名 称	期 日	内 容	人数等
出前機器講習	10月27日	デジタイズ図書再生機の説明 iPhone・iPadの音声操作説明 テキストデジタイズの紹介 ※須磨区役所内会議室で開催	3人
福祉機器展	8月5日	機器の展示・相談など(18団体)	158人
PTN3貸出	通 年	デジタイズ図書体験用(短期貸出)	延13台

(14) 点字図書館だよりの発行

(年6回、各回 墨字版274部、点字版185部、デジタイズ版121部)

(15) 神戸市「広報紙 KOBE」「市会だより」の編集発行

区 分		発行回数(年)	送付数 (個人・団体)	発行部数
広報紙 KOBE	点字版	13回	139	延3,625部
	デジタイズ版	13回	122	延1,586巻
市会だより	デジタイズ版	4回	24	延96巻

(16) 点字カレンダーの製作(2024年版) 56部

(17) ボランティア自主研究会・勉強会・研修会の開催支援(通年)

延べ開催回数 360回、延べ参加者 2,962人

点訳(6種) 13グループ、英語、理数、理療、校正、楽譜(308回2,889人)

音訳(5種) 医療、時代物、絵本、ボイス、音訳研修(77回533人)

テキストデジタイズ(2種) 校正、研究会(31回232人)

(18) 館外での職員・ボランティア研修会

期 日	行事等	場所・行先	参加者
5/17、7/19 9/20、11/15 1/17、3/13	近畿点字研究会	対面(日本ライトハウス情報文化センター)・ZOOM開催	18人
6/13～14	新任管理者研修会	玉水記念会館 日本ライトハウス情報文化センター(大阪市)	1人
7/6～7	サピエ研修会(玉水記念会館)	ZOOM参加	4人
10/10～11	第48回全国視覚障害者情報提供施設大会	山形テルサ(山形市)	1人
10/31	ボランティア合同研修会	国立民族学博物館(吹田市)他	32人

(19) 利用者との交流会の開催

期 日	内 容	共 催	参加者
6月15日	「笑いヨガ」	点灯虫グループ	22人
12月8日	視覚障がい者向け映画『三屋清左衛門残日録 -あらたな幸せ-』上映会	くすのきグループ	43人

(20) 福祉体験・啓発事業(児童・生徒等の受入れ)

期 日	行事等	対 象	参加者
8月7日	「目が見えないってどんなこと ～学ぼう障がいのこと～」	長尾学童保育コーナー	26人
8月9日	「目が見えないってどんなこと ～学ぼう障がいのこと～」	東須磨児童館	25人
①11/7～8 ②11/9～10	職場体験実習 (トライやるウィーク)	①原田中学校 ②布引中学校	① 2人 ② 1人
11月14日	職場体験実習(トライやるデイ)	兵庫県立視覚特別支援学校	2人
11月2日	図書館見学	兵庫県立総合衛生学院	25人
2月20日	図書館見学	須磨区松尾地区民生委員	7人

(21) 点字啓発等事業(体験コーナー等行事・教室への指導者等派遣)

期 日	行事等	派 遣	参加者
7月7日	神戸シルバーカレッジ 健康・福祉コース授業	職員、点灯虫グループ	51人
7月14日	市視協・点字競技会	点灯虫グループ	11人

(22) 神戸アイセンターでの相談事業

神戸アイセンター病院を訪れる患者さんを対象に、毎月定例的に職員が赴いてiPhone・iPadの使い方などの機器相談会や生活相談会を開催した。

期 日	内 容	場 所	回数
第一金曜日	iPhone・iPadの使い方	神戸アイセンター・ビジョンパーク	8回
第二月曜日	生活相談・サピエ相談	神戸アイセンター・ビジョンパーク	7回

(23) 読書バリアフリー法にかかる打合せ会

令和元年に制定された「読書バリアフリー法」を踏まえ、視覚障がい者等の読書環境の整備に向けた取り組みを推進するため、中央図書館、障害福祉課、教育委員会、本館が集まり連携体制構築に向けた打合せ会を開催した。

期 日	内 容	場 所	参加者
12月7日	読書バリアフリー法を踏まえた情報共有、連携に向けた意見交換	総合福祉センター	10人

障害者福祉基金を活用した助成事業

障害者福祉基金を活用し、障がい者のスポーツ・文化・福祉活動への助成、障がい者・児を対象とした事業所への助成を行った。

また、障がい者の自立と社会参加を目指し、「神戸ふれあい工房」を拠点に、障がい者施設・就労支援事業所の商品の紹介・販売を促進した。

(1) スポーツ・文化・福祉活動への支援

① フェスピック事業助成

障がい者の社会参加及び地域とのふれあい交流を目的とした事業を実施する団体、事業所、施設に助成を行った。

令和5年度	69件	3,156,000円
令和4年度	55件	2,799,000円

② 障害者文化振興事業助成

障がい者の文化活動を通じて、社会参加や地域とのふれあい交流を推進することを目的とした事業を実施する団体に助成を行った。

令和5年度	858,224円
令和4年度	578,436円

③ 障害者スポーツ振興事業助成

令和5年度	5,000,000円
令和4年度	850,000円

(2) 機能訓練及び就労・自主製品開発改善等のための助成事業（清水事業助成）

知的障がい者(児)の福祉向上を目的とした事業を実施する団体・施設に助成を行った。

令和5年度	2,777,000円
令和4年度	2,960,600円

(3) その他の助成

神戸ふれあい工房の自主製品販売運営費として障害者福祉基金から助成した。

令和5年度	1,100,303円
令和4年度	788,304円

(4) SOCIO-ROOTS 事業助成

三菱電機 SOCIO-ROOTS 基金からの寄付を活用し、障がい児・者を対象に緊急を要する設備の改修や環境整備に必要な備品の購入、通所施設において支援者の技能習得等を目的とする研修に対して助成を行うこととしていたが、令和5年度の実績はなかった。

令和5年度	0件	0円
令和4年度	3件	899,000円

神戸ふれあい工房の運営

神戸ふれあい工房に加入している神戸市内の 61 施設・事業所の製品を販売した。店舗は、令和 5 年 3 月 31 日にカフェ「Link tree」に併設店舗が開店した。

(1) 外商販売 8,728,356 円

- ①「夏の特選ギフト」「クリスマスギフト」「バレンタイン・ホワイトデーギフト」チラシ販売を実施し、神戸市等に対し周知依頼した。
- ②企業等から景品や記念品等の注文を受けて販売した。

(2) 出張販売 391,070 円 (9 件)

企業や地域団体のイベント（元町夜市、ソニー生命販売会等）や、講演会・研修会等で出張販売を実施した。

(3) 店舗販売 2,479,602 円

令和 5 年 3 月 31 日よりカフェ「Link tree」の併設店舗にて販売を行った。

(4) 広報啓発

- ①ホームページの運用
店舗概要に加え、ギフト商品の紹介を行った。
- ②Facebook・Instagram の運用
おすすめ商品・イベント等の最新情報を掲載した。（投稿回数 32 回）
- ③販売促進ツール
外商と店舗の情報を掲載しているパンフレットとカードを作成した。
- ④マスコットキャラクター「ふわぼん」を使った啓発活動
事業所紹介「ふわぼん通信」を作成。ギフトチラシの裏面に掲載し、SNS で発信した。
(3 回)

子ども・子育て支援

(1) こべっこランドの運営

令和5年1月にハーバーランドでのこべっこランドの運営を終了し、同年2月には、兵庫区和田岬にてリニューアルオープンし、運営を開始した。ミズノスポーツサービス株式会社と共同事業体を結成し、管理運営を行った。

児童の健全育成を図るため、①健全育成事業（心身の健康増進を図り、社会的適応力を高め、情操を豊かにする）、②発達支援事業（発達障がいなど配慮が必要な子どもへの支援及び保護者に対する指導助言、支援者の育成を行う）、③啓発連携事業（ボランティアの育成や各種啓発事業の実施、地域企業や近隣施設、大学、専門学校や児童福祉施設等との連携）を実施した。

	開館日数	年間入館者数	1日あたり 入館者数	入館者数累計
令和5年度	307日(2日閉館)	498,437人	1,624人	11,974,646人
令和4年度	292日(16日閉館)	278,859人	955人	11,476,209人
(旧施設)	248日	155,328人	626人	—
(新施設)	44日	123,531人	2,808人	—
令和3年度	280日(28日閉館)	167,885人	600人	11,197,350人

①健全育成事業

0歳から18歳未満のすべての児童を対象とした児童福祉施設として、幅広い年代に向けた健全育成事業を実施した。令和5年度は他者を受容し、一人一人の人格を尊重し、多文化共生できるイベントを行った。

ア. 「インクルーシブ」こべっこランド

障がいの有無、性別や年齢、国籍に関わりなく、共に楽しみ、他者との違いを受容する気持ちを育むイベントを実施した。

- ・モルック体験教室
- ・エンジョイヒップホップダンスワークショップ

イ. 「多様な利用形態で楽しむこべっこランド」

- ・インスタグラムでのイベント情報の発信
- ・YouTubeの動画配信による在宅家庭の遊びを支援

ウ. 中学生・高校生の視野を広げ、前向きな気持ちを育てる事業

- ・中高生ルームの開設

ルーム内に設置する机、書籍、ゲームなども中高生による人気投票により決定し、整備を行った。

- ・中高生プログラム「建築家体験」「パティシエ体験」「声優体験」
- ・高校生によるこべっこ科学フェスタ、コンサート（ブラスバンド、和太鼓）
- ・こべっこ中高生ランド

ホールの広い空間を使って大きなスクリーンでのゲームや運動を楽しんだ。

エ. 体力増進事業の充実

運動事業にノウハウを有するミズノスポーツサービス株式会社が、楽しく体を動

かすプログラムを実施することで、体力増進事業の充実を図った。

- ・ピエロと一緒に仲良く体を動かす「プレイサーカス」
- ・はじめて！チャレンジ教室（跳び箱、鉄棒、走り方、なわとび）

【健全育成事業一覧】

◆中学生プログラム ◎高校生ワークショップ ○新規事業

◇企業・団体・学校との連携事業

【あそび】

わくわくゴールデンウイーク	4,234人	すくすくたいむ※（39回）1,124組	2,375人
こべっこハロウィン（2日2回）	1,602人	ベビーたいむ（39回）690組	1,498人
カーモのバースデーイベント	520人	○リニューアル1周年記念イベント	
○夏休み！ふわふわランド （8日8回）	7,580人	こうべのじどうかん大集合	2,213人
○春休み！ホールであそぼう （6日6回）	6,015人	カーモがいっぱい	1,450人
		かば☆うまあそび歌ライブ（2回）	509人
		計100回	27,996人

【体力増進】

はじめて！チャレンジ教室 鉄棒、跳び箱、走り方、縄跳び （10日20回）	854人	ミッションプログラム（2回）	354人
◆ドローン操縦体験（3回）	11人	○プレイサーカス	48人
○ヒップホップダンス（2回）	197人	○モルック体験（2回）	40人
		○あつまれ！みんなのスポーツ	596人
		計31回	2,100人

【料理】

○体においしいクッキング （2日6回）	136人	カーモパン（2日6回）	166人
◆パティシエ体験（2回）	32人	◇老祥記の豚饅づくり（2日4回）	65人
チョコレートマフィン（2日6回）	160人	おはぎ（2日6回）	166人
和菓子（ねりきり）（2日6回）	156人	おせちの錦卵（2日6回）	117人
○カップケーキ（2日6回）	160人	祖父母クッキング	38人
◇モロゾフカスタードプリン	20人	親子クッキング	38人
○蒸しパン（15回）	348人	◇中央卸売市場 お魚クッキング	78人
こいのぼりクッキー（2日6回）	179人	計73回	1,859人

【造形・美術】

芸工大造形ワークショップ (2日4回)	1,490人	建築家体験(2回) 造形特別プログラム(12回)	34人 3,382人
○芸工大ウッドクラフト (10回)	2,992人		
○木のベンチをつくろう	7人	計29回	7,905人

【音楽】

○クリスマスジャズコンサート	312人	○ドラムをたたいてみよう(6回)	45人
○ジャズボーカルワーク ショップ(3日3回)	11人	○ドレミコンサート(2回)	569人
◎ハッピーコンサート (北須磨高校)	222人	○みんなでドレミ(4日24回)	897人
○おやこでドレミ(5回)137組	290人	○ファミリーミュージックデー (84回)	5,220人
○カーモマラカスでリズムあそび	596人	計127回	8,162人

【文化】

人形劇公演(クラルテ)(2回)	418人	児童福祉文化財サーカスの灯	139人
○人形劇公演(京芸)	326人	◆声優体験～学べ!声優力～ (2日2回)	27人
◎ニューイヤー和太鼓!2024!!	252人	計7回	1,162人

【環境・科学】

◎○中高生による こべっこ科学フェスタ	365人	◆iPadでつくろう こべっこ昆虫展	24人 9,252人
◆物の性質をしらべよう	53人	○ネイチャーゲーム(4回)	130人
◎○LEGOでプログラミング	46人	計9回	9,870人

回数計 376回 59,054人

②発達支援事業

障がい児や発達がゆっくりな子どもとその保護者への指導・助言や支援を目的とした事業を実施した。また、子育て中の保護者、保育や療育の現場で活躍する専門職、ボランティアに対して各種教室・講座・研修を行った。

ア. 発達支援プログラム

- ・1,500g未満で生まれた赤ちゃんとその家族のための子育て支援教室(YOYOクラブ)
- ・学齢期・思春期子育て講座

概ね5歳から中学生までの子どもの保護者を対象に発育上の課題(学校不適応、ウソ、いじめ等の問題行動)や親子関係のつまずきなどの諸問題への早期の支援をした。

- ・親と子のふれあい講座

すべての家庭における子育てを支援する“子育て、親育ち応援”のためのプログラム開発とその普及を目的とした「赤ちゃん講座」「1歳半講座」と「おねしょ講

座」「家族支援講座」の4つの講座を実施した。

・障がい乳幼児親子教室

0歳～4歳のダウン症児の発達を促進するための援助を行うとともに、その親への指導・助言を通じて望ましい親子関係の成立を支援した。

・感覚運動指導教室

3～10歳の自閉スペクトラム症や知的障がい等の子どもに、臨床観察を実施し、感覚統合理論に基づいた指導を行った。また、自立歩行が難しい重複障がいのある子とその家族を対象に、感覚運動遊具を使ったあそびの活動や保護者同士の交流を図る「エール」を開催した。

事業名・講師	対象	人数
極低出生体重児とその家族のための子育て教室 －YOYOクラブ－ 畠山 美穂 甲南女子大学教授	出生体重 1,500g 未満の修正月齢 3ヵ月～概ね 2歳半の乳幼児とその家族	総数 27組 延べ 221人
学齢期・思春期子育て講座 倉石 哲也 武庫川女子大学教授	概ね 5歳～15歳の子どもの対応に悩んでいる保護者	・学齢期講座 56期 10人 延べ 43人 57期 11人 延べ 48人 ・思春期講座 26期 8人 延べ 28人 27期 4人 延べ 15人 ・就学前講座 22期 10人 延べ 36人 23期 5人 延べ 12人
	拠点児童館職員	・拠点児童館支援 1館 4回
親と子のふれあい講座 大島 剛 神戸親和大学教授	乳幼児と保護者	総組数 169組 延べ 380人
	診断を受けているか療育手帳を持っている幼稚園・保育所年中・年長児と保護者	・家族支援講座 6組 7回 延べ 37人
	夜尿児と保護者	・おねしょ講座 2組 5回 延べ 11人
	拠点児童館職員	・拠点児童館支援 5館 43回
障がい乳幼児親子教室 七野 友子 言語聴覚士・公認心理師	0歳～4歳のダウン症児とその保護者	・グループ指導 16組 35回 延べ 424人 ・個別指導 13組 13回 延べ 107人 ・言語指導 3組 3回 ・抱っこ法 1組 1回
感覚運動指導教室 中林 稔堯 神戸大学名誉教授	3歳～10歳の知的障がい児、発達障がい児、ダウン症児等重複障がい児	・感覚運動指導（前期）12回 延べ 220人 ・感覚運動指導（後期）12回 延べ 177人 ・教育相談 21回 21人 ・感覚運動指導（エール）22回 延べ 99人
	保育士・児童館職員等	・拠点児童館出張講座 3館 6回

③居場所づくり事業

ア. きらきらルームの実施

土曜日（概ね月1回）予約制で年間12回実施した。「自由あそび」と講師を交えて保護者同士が交流や情報交換ができる「みんなでトークタイム」からなっている。

	対象児	大人	兄弟姉妹	計
令和5年度	124人	166人	57人	347人

イ. スマイルクラブの実施

発達がゆっくりな小学4年生～中学生までの子どもと家族を対象に、パソコン・運動・自由あそびなどを取り入れた年齢に応じたプログラムを実施した。

- ・プログラミング教室（2回）18組 36人
- ・スマイルルーム（3回）6組 14人
- ・親子クッキング教室（1回）9組 18人
- ・ドラムにチャレンジ（1回）1組 3人

ウ. 障がい児保育ゼミ

保育所（園）、幼稚園、認定こども園、児童館等で障がい児を担当している職員が事例発表やディスカッションを通じて、①発達評価についての理解・方法 ②園・施設での適応状況についてのとらえ方・考え方 ③保護者の障がい受容レベルの理解と対応 ④障がいについての基本的な考え方 ⑤保護者の養育態度と担当職員との関係のあり方などを学ぶ実践的な研修を6回開催した。令和5年度は25人の参加で実施した。

エ. 臨床心理士による休日子育て相談

他の相談機関が休みの日曜日に、利用しやすいこべっこランドで臨床心理士が相談に対応し、保護者の育児疲れや子育て不安の軽減、虐待予防に努めた。年間12回行った。

オ. 「発達障がいセミナー（市民講座・専門講座）」

発達支援プログラムの講師陣を中心に、市民ボランティア対象の講座（6講座8回）を開催し、子どもと家族の支援に繋げた。また、学校園・児童館・放課後等デイサービス職員等の専門職を対象の講座（4講座10回）を開催し、保育や療育の現場で子どもたちに関わる職員の資質向上を図り、延べ875人の参加があった。

カ. おあしすルーム

障がいのある子どものきょうだいと家族のための居場所。孤独感をかかえがちなきょうだいと保護者が一緒に楽しい時間を過ごせるプログラムを3回実施し、16組55人の参加があった。

キ. パパママサポートセミナー

両親と一緒に参加することで、お互いの思いを共有でき、より良い親子関係のヒントが見つかるよう子どもへの関わり方を学んだ。5回実施し、7組46人の参加があった。

ク. 孫を知ろう、支えよう

発達障がいについての理解を深め、祖父母の子どもや孫とのコミュニケーションに役立つかわり方のポイントを学んだ。2回実施し、35人の参加があった。

ケ. センサリールームの設置

子どもが心地の良さを感じ、クールダウンできる部屋として6月よりセンサリールーム（スノーズレンの部屋）を設置した。

④啓発連携事業

幅広い年代のボランティアの育成、ボランティアと子どもたちの交流を目的としてボランティア活動の推進を行った。

また、神戸市内の小学生が福祉への関心を持ち、成長できるよう、多文化共生や障がいについての理解を深める啓発連携事業を実施した。

【ボランティア登録数】

ボランティア名	登録数	延べ活動人数
大学生ボランティア	34人	305人
大型イベント高校生ボランティア	104人	162人
療育サポーター	19人	215人
中高生ボランティア	26人	163人
合計	183人	845人

【啓発連携事業】

◇企業・団体・学校との連携事業

ぬいぐるみの大冒険 (友生支援学校)	7人	こべっこクリスマス (6回)	914人
		こべっこパーク (4回)	2,568人
こべっこ中高生ランド (12日)	214人	◇ぼうさいラリーにチャレンジ!	925人
◇魚河岸デー	450人	◇家族で楽しくまなぼうさい	446人
◇兵庫運河祭	278人	(展示)	
◇こどもフェスタ	603人	◇パナソニックおやこ絆 LABO	52人
		(2回)	
		計30回	6,457人

⑤地域の子育て支援

ア. 市内の児童館支援

・発達障がい児等育児支援（療育巡回）

市内児童館等の放課後児童クラブに在籍している発達障がい児等の配慮の必要な子どもに、より良い支援ができるよう臨床心理士が巡回し、放課後児童クラブの現場で対象児の観察と発達の特性に合った関わり方等を助言する職員研修を行った。

講師はこべっこランドの臨床心理士が担当した。令和5年度は16の児童館・学童保育コーナーを巡回し、1月・2月に3~4館合同のグループワークで年度末カンファレンスを5回行った。

・児童館派遣・支援事業

児童館、学童保育コーナーに講師や団体を派遣し、遊びや子育て支援のプログラムを実施することで、児童館における児童館活動の充実を支援した。

イ. 拠点児童館の支援

こべっこランドの発達支援プログラムの講師陣と連携して、拠点児童館の子育て専門講座、保育士や施設職員等への指導者向け講座を実施し、発達支援担当職員が23回拠点児童館へ赴いた。また、発達がゆっくりな乳幼児親子の居場所【J-cafe】に臨床心理士を派遣し、拠点児童館事業の充実を図った。

ウ. 児童館職員研修

児童館で勤務する職員のさらなる資質向上を図るため、市立の全児童館を対象に職員研修を実施した。

内 容	受講人数
放課後児童支援員新任研修	128 人
児童館職員研修（館長）	116 人
児童館職員研修（指導員）	90 人
市民救命救急士講習	83 人
放課後児童支援員研修	118 人
指導員研修	104 人
児童館職員研修（オンライン）	全児童館職員

(2) 児童館の運営

厚生労働省による「児童館ガイドライン」を踏まえ、児童館運営の一層の充実を目指し、①児童健全育成事業の推進（遊びを通した子どもの発達の増進と安定した日常生活の支援）、②子育て支援事業の推進（子育て家庭への支援）、③地域連携の推進・地域とのネットワークづくりを運営方針とし、市社協児童館の管理運営にて取り組んだ。

また、平成31年度より指定管理者として運営してきた東灘区・垂水区の児童館については5年を経過し、魚崎児童館と垂水児童館以外の5児童館（北青木、住之江、本山東、東垂水、星陵台）の5児童館を令和6年度より他法人に移管することを決定した。

	受託館数	延べ利用人数
令和4年度	児童館45館（内 拠点児童館6館、 中高生の活動拠点事業1館） 学童保育コーナー30コーナー、 1分室（内 放課後こどもひろば 6か所）	児童館701,959人 学童保育コーナー・分室351,099人
令和5年度	児童館43館（内 拠点児童館5館、 中高生の活動拠点事業1館） 学童保育コーナー29コーナー、 1分室（内 放課後こどもひろば 6か所）	児童館755,795人 学童保育コーナー・分室360,001人 ※コロナ等の影響が減少したため、利用人数が増加した。

①子ども育成事業

日々の遊びや様々な行事を通して、子どもの健全育成を図るとともに仲間づくりや心と体の育ちを支援した。また、楽しく魅力ある児童館になるよう児童館内外の環境整備に努め、子どもたちに豊かな遊びを提供した。

ア. 季節行事（夏まつり、ハロウィン、クリスマス会等）、運動あそび（なわとび検定、卓球大会等）、ゲーム（オセロ、ボードゲーム等）、創作あそび（工作、カプラ、ビーズ等）、伝承あそび（こま、けん玉、なわとび、あやとり、お手玉、かるた等）、音楽あそび（ミュージックベル、銭太鼓等）、絵本の読み聞かせ、紙芝居・エプロンシアター等の鑑賞。

イ. ふれあい交流事業

・高齢者とのふれあい交流事業

児童館を拠点として、児童と高齢者が地域ぐるみで交流することにより、児童に高齢者へのいたわりや敬愛の念、思いやりの心など、情操を高めることを目的に実施した。昨年度はコロナ禍の影響で直接的な交流ができにくい状況であったが、今年度は直接手紙やプレゼント、また出向いての交流を実施できるようになった。（43館・5コーナー）

・自然とのふれあい交流事業

環境や自然について楽しみながら学び、エコ（環境）活動を通して子どもたちが人と自然のかかわり、環境問題について、関心や理解を深める事業を実施した。（41館・3コーナー）

ウ. 点字図書館と児童館による福祉体験協働事業

障がい者福祉について学び、子どもの福祉の心の醸成を目的に点字図書館の紹介・点字体験等を実施した。(1館・1コーナー)

エ. 子どもの居場所づくり(社会福祉推進基金を活用)

学童保育クラブ登録以外の子どもが、家庭に長時間一人で過ごすことがないように、児童館を活用して子どもの居場所づくりを実施した。

(実施プログラム:子どものおべんとうひろば、学習支援、食に関する体験)

実施館:生田川、神戸諏訪山、湊川、長尾、高倉台、板宿、有瀬

オ. 中高生の活動拠点事業

中高生の居場所として、また「ユースステーション北」としての機能も併せフリースペースの提供等、中高生事業等を実施した。

実施館:すずらんだい(中高生延べ利用人数2,115人)

カ. 児童館における健全育成活動等開発事業

市内及び他都市の普及に繋げることを目的に、児童館の特性を活かした事業を試行的に実施し、報告書の作成および報告会での発表を行った。

テーマ	実施館	実施内容
児童館型プレイパーク	高倉台児童館	・「ひまわりひろば」(木登り、ハンモックの青空図書館、大学との連携等)の実施
子どもたちが自ら取り組む ルールづくり・出番づくり	東須磨児童館	・アンケートやこども会議の実施 ・「スマゆき祭り」の実施
新しい児童館について (子どもたちが自ら取り組む ルールづくり・出番づくり)	すずらんだい 児童館	・アンケートやこども会議の実施 ・行事内での取り組み動画の発表 ・アンケート結果の配付
児童館が子どもと共に 地域課題に取り組む	生田川児童館	・オンライン学習サポート ・ハルカフェ(高校生と地域住民の交流)やこどもカフェの実施
乳幼児受け入れ・ 相談機能の強化	神戸諏訪山 児童館	・インスタ講座 ・「mommy's time」の実施(助産師講話、託児等)
	池田児童館	・「チルタイム」の実施 (助産師講話、託児等)

②親子館事業

児童館で行う在宅育児家庭支援事業を総称して「親子館事業」とし仲間作りを図るとともに、親子の居場所となるよう取り組んだ。

名称	対象者	内容・実施回数	実施館数	
すこやかクラブ	幼児(2~4歳)とその保護者(登録制)	親子遊び・保護者交流・子育て講座・避難訓練、週1回実施 ※託児あり、要年会費	33館	登録者数 292人
なかよしひろば	0歳から就学前乳幼児とその保護者(自由参加)	親子遊び・親子交流・子育て相談、週3回以上	43館	延べ参加者数 57,195人

③放課後児童クラブ(学童保育)

※70箇所実施・3児童館(生田川、すずらんだい、長尾)は学童保育非実施。

保護者が就労等により昼間家庭にいない小学生を対象に、放課後の遊びや生活の場を提供し、子育てと仕事の両立支援や放課後における児童の健全育成を行った。

	実施箇所数	登録児童数 (R6.3月)	年度平均 登録数
児童館	40館	2,720人	61人
学童保育コーナー・分室	29コーナー・1分室	1,904人	67人
合計	70箇所	4,624人	64人

ア. 8時開設の実施(70施設)

イ. 児童入退室管理及び保護者等連絡システム導入(70施設)

ウ. 長期休業中の昼食提供のモデル実施(兵庫区:中道・御崎・湊川)

エ. 学習支援(70施設)

④放課後こどもひろば事業(6か所実施)

放課後児童クラブ(学童保育)と神戸っ子のびのびひろば(放課後子供教室)を包括的に運営した。また、和田岬、鈴蘭台、横尾においては、夏休みの運営時間を午後から午前に変更して児童の受け入れを行った。登録児童数 791人 (人)

実施場所(小学校)	灘	和田岬	鈴蘭台	横尾	高丸	長坂	合計
延べ参加児童数	3,120	4,214	2,680	2,323	6,499	11,396	30,232

⑤児童館子育て相談事業

育児に関する様々な問題について相談に応じた。(8,356件)

⑥拠点児童館事業

児童問題に関する専門性を有する児童館を「拠点児童館」と位置づけ、こべっころンドと連携した子育て専門講座や指導者・従事者向け講座を実施した。また、発達の気になる子どもと保護者の支援等に取り組んだ。

ア. こべっこランドと連携した子育て専門講座

講座	実施館	参加者数
赤ちゃんとのふれあい講座	魚崎・河原・有野・落合・垂水	58組
おねしょをとおした子育て講座	河原	延べ2人
学齢期・思春期子育て講座	垂水	延べ37人

イ. 指導者・従事者向け講座

講座	実施館	参加者数
保育現場で活かす感覚運動あそび	魚崎・有野・垂水	延べ84人
保育現場で活かす インリアル・アプローチ	河原・落合	延べ46人

ウ. 発達の気になる子どもの居場所 (Jidoukan-cafe (通称: ジェイカフェ))

発達の気になる子どもと保護者が安心して過ごせる場の提供や、保護者同士の交流を図ることを目的として実施した。

エ. 自主事業 (地域特性・ニーズをふまえた事業)

- ・防災事業 (魚崎)
- ・赤ちゃんすこやか (河原)
- ・中町マルシェ (有野)
- ・子どもヘルパー活動 (落合)
- ・学習支援 (すいすいサマースタディ) (垂水)

⑦ キャナルタウンおやこひろば

就学前の乳幼児とその保護者が、ゆったりと過ごせる居場所の提供を行った。

ア. 発達の気になる乳幼児と保護者を対象とした支援事業 (駅前 J-cafe)

イ. 助産師による子育て相談 (子育てシェアタイム)

ウ. アシックスコンディショニングセンターとの連携事業 (ぴよんぴよんたいむ)

※運営管理者が令和6年3月末をもって撤退のため、本年度で終了

エ. 兵庫児童館親子館事業との連携

⑧ 子育てコミュニティ育成事業 (児童館日曜日等開放)

地域の各種団体やボランティアで構成する「開放委員会」等が実施する児童館の日曜日等の開放や地域子育て行事などの「子育てコミュニティ」事業の支援を行った。

(43館: 全館実施)

⑨ 児童館実習生の受入れ

保育士、児童厚生1、2級指導員資格等の取得を希望する学生の実習を受け入れ、福祉人材育成を行った。(6館、7人)

⑩ 放課後児童支援員 登録センター

学童保育施設での勤務希望者の登録受付および職員を募集している施設への閲覧業務を行った。(個人を特定しない情報についてはホームページからの閲覧も可)

登録者数 221人 採用決定者数 48人

来所閲覧数 178件 ホームページ閲覧数 3,447件

令和6年度は、より登録センターのシステムや放課後児童支援員の仕事内容を理解できるよう、チラシ・ポスターのリニューアルを行った。また、配架先として、市営

地下鉄や山陽電鉄等の駅やショッピングセンター等を新たに開拓した。また、神戸市ファミリー・サポート・センター会員向けLINEで登録センターのチラシの配信を行った。(配架・掲示先 381 施設)

(3) 地域の子育て支援

子育てしやすいまちづくりをめざし、身近な地域で子どもたちの育ちを支援できるよう、こどもの居場所づくり、地域の子育て人材の育成及び関係機関や子育て支援者等とのネットワークづくりの推進を行うとともに、児童館及び学童保育施設（以下、「児童館等」という。）の運営支援を行った。

①地域子育て支援事業推進業務

区社協に1名ずつ配置された子育てコーディネーターを中心として、地域における子育て・子育ての課題に対応することにより、地域における子育て支援の充実を図った。

ア. 子ども・子育てサポート事業

近隣に児童館がない地域及び長期休業中など乳幼児親子が児童館を利用しづらくなる期間など、地域の実情に応じて、地域福祉センター等の当該地域の子育て世帯が参加しやすい施設を活用して子育て親子が集える場を提供し、交流の促進及び子育てに関する相談援助等を実施した。

イ. 児童館等の運営支援

市内すべての児童館等を巡回訪問し、適切な運営に向けて相談及び支援を行った。

巡回訪問回数 225 回

ウ. 児童館等の職員対象研修の実施

喫緊の課題への対応力の向上および区内の職員同士の情報共有を目的として、区単位で研修を実施した。また、各区における館長連絡会の開催により、児童館同士の情報共有及び関係機関との連携推進を図った。

テーマ	講師	
保護者対応 (グループワーク)	全区	学楽舎 川上 典子 氏
子どもの成長を支援する 児童館 ～児童館活動を通して～ (実践事例研修)	東灘、灘 北、長田 須磨 中央、兵庫 垂水、西	佐近 由美 氏 (元兵庫区社会福祉協議会 子育て支援担当課長) 岩本 直子 氏 (元神戸市総合児童センター 療育担当課長)
放課後児童クラブに おける安全管理・ 危機管理	東灘、兵庫 灘、中央 北 長田、須磨 垂水、西	神戸市教育委員会 植中 猛 氏 神戸市教育委員会 東 美典 氏 神戸市教育委員会 新井 雅之 氏 神戸市教育委員会 堀川 和之 氏 神戸市教育委員会 大前 敏郎 氏

②こどもの居場所づくりの全市展開推進事業

子どもたちが放課後等に食事や学習、団らんなどを通して安心して過ごすことができる居場所づくりを実施する地域団体等に対して、活動の拡充のための総合的な支援及びコーディネートを行うことにより、事業の全市展開を図った。

立ち上げや運営に関するコーディネート機能を強化するため、令和3年度より5区に推進職員を配置し、区役所、関係機関等と連携し地域の様々な人たち（店舗、学校等含む）とともに、地域ぐるみでこどもの育ちの見守りを推進できるよう調整をした。

ア. 小学校区別の実施状況

年 度	こどもの居場所 実施個所数	こどもの居場所がある 小学校区数	小学校区における 設置率
令和5年度(3月末)	324 か所	149 学区	91 %
令和4年度(3月末)	275 か所	130 学区	79 %
令和3年度(4月当初)	105 か所	66 学区	40 %

イ. 地域に関する情報収集

こどもの居場所の運営に必要な協力団体や実施場所等を調査し、新たにこどもの居場所づくりを実施しようとする団体への情報提供及び立上げ支援や、すでにこどもの居場所づくりを実施している団体の活動継続支援につなげた。

ウ. こどもの居場所実施団体への支援

すでにこどもの居場所づくりを実施している団体の活動状況を把握し、活動継続に必要な支援につなげるとともに、新たにこどもの居場所づくりを実施しようとする団体へは、実施場所の調整、地域団体等との顔つなぎ、必要な情報の提供、広報支援等、各種支援を行った。

各区こどもの居場所づくり推進担当者連絡会において、課題や成功事例を共有し、支援方法の拡充につなげた。また、コープこうべ各店舗が実施するフードドライブの取り組みとこどもの居場所をつなぐことを目的として、コープこうべ第3、4、5地区のエリアマネージャーとの懇談の機会を持った。

エ. 研修会・交流会の実施

こどもの居場所づくり事業を実施する関係団体への支援の一環として、各区で講師を招くなどして、研修会や交流会を行った。

また、各区のボランティア入門講座におけるこどもの居場所での体験受入れ等を通して、人材の育成を図った。

オ. こどもの居場所づくり事業ポータルサイトと寄付物品マッチングシステムの改修

令和3年度に開設したこどもの居場所実施団体の紹介や居場所づくりに関する情報案内などを行うポータルサイトを改修するとともに、寄付物品マッチングの機能を付加し、この機能を活用するこどもの居場所を運営する団体の登録を促し、マッチング機能活用を推進した。更に、食支援事業も含めた情報のプラットホームづくりや寄付物品マッチングの円滑化のための再改修を行い、「こども地域応援ネットワーク KOBE」を開設した。

カ. コープこうべとの連携による配送システムの活用

令和5年3月にコープこうべと締結した協定に基づき各区拠点店舗における寄付物品の受け渡しを開始し、定着化を図った。

③神戸市子ども会連合会(市子連)事務局の運営

地域の子ども会活動の活性化を図るため、事務局の運営を神戸市子ども会連合会から受託し、神戸市への補助金申請や市子連理事会、常任理事会の運営を中心に活動をサポートした。

【子ども会の組織状況】

年度	単位子ども会数	構成員数
令和5年度	128	6,474人(会員数4,796人、指導者等1,678人)
令和4年度	129	6,332人(会員数4,713人、指導者等1,619人)
令和3年度	135	6,810人(会員数4,940人、指導者等1,870人)
令和2年度	149	7,603人(会員数5,505人、指導者等2,098人)

【市子ども会連合会の開催行事】

事業名	実施日時・場所	参加者(人)
第5回ドッジビー大会	日時:令和5年12月10日(日)9時30分 場所:長田区文化センター	33名
第25回神戸市子ども会 絵画コンクール	(表彰式) 日時:令和6年2月4日(日)10時 場所:こべっこランドこべっこホール(展示) 日時:令和6年2月29日(木)~3月13日(水) 場所:さんちか花時計ギャラリー	応募数 129点

(4) 児童館事務の一元化

市・区社協の法人合併に伴う児童館事務の一元化に向けて、灘・中央・兵庫(以下先行3区)において、区社協で雇用していた放課後児童支援員を市社協雇用に変更するため、施設長への説明会や職員への意向調査を経て、雇用変更に伴う事務手続きを行った。

①勤怠・給与管理システムの先行導入

ICT・アウトソーシング等を活用した事務運用を行うため、新たな勤怠・給与管理システムをトライアル期間を経て導入し、令和5年12月より全施設での本格運用を開始した。また、システムの導入説明、関連各所との連絡調整やそれに付随するシステム調整のためのコンサルタント契約、システムの効果的な運用のための補助システムなども導入した。

②会計事務の整理

雇用変更に伴い、会計についても統合するため、新たな会計事務を整理するとともに、マニュアルの作成、使用する様式の変更、規定関係の整理等を行った。

③取り組み経過

令和5年

9月～ 先行3区児童館職員説明会・児童館運営委員説明会開催

10月 全施設勤怠・給与管理システムトライアルスタート

12月 全施設勤怠・給与管理システムを本格活用

〈参考〉

令和6年

4月 先行3区児童館職員区社協雇用から市社協雇用に変更

(5) ファミリー・サポート・センターの運営

子育て中の方(依頼会員)が、仕事や急な用事などで子どもの世話ができないときに一時的・臨時的に近隣の方(協力会員)がサポートをする、地域における会員相互の子育て支援の仕組みとしてのファミリー・サポート・センターの運営を推進した。センター事業の広報活動に努めたほか、各種講習会等の実施を通して協力会員の資質向上を図った。

①会員登録状況

(単位：人)

区別	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	合計
依頼会員	1,059	758	678	241	337	125	393	678	495	4,764
協力会員	258	161	151	79	191	66	164	242	187	1,499
両方会員	38	48	28	9	28	14	26	37	34	262
合計	1,355	967	857	329	556	205	583	957	716	6,525

②協力会員活動内容

(単位：件)

保育施設・幼稚園の送迎	2,308
保育施設・幼稚園の登園前・帰宅後の預かり	1,920
子どもの習い事等の送迎	1,831
放課後児童クラブ終了後の預かり	902
学校の放課後の預かり	648
保護者のリフレッシュの際の預かり	566
小学校・特別支援学校等の登校前の預かり及び送り	411
その他(自宅就労時、買い物等外出時、保護者等の病気、兄弟姉妹の習い事等、保護者の病気、急用時などの預かり)	2,093
計	10,679

③活動内容

ア. 協力会員講習会

協力会員登録予定者を対象に講習会を開催した。

	開催日	参加者数(人)
第1回	4月18日(火)・19日(水)	23
第2回	5月26日(木)・30日(火)	17
第3回	7月4日(火)・5日(水)	22
第4回	8月29日(火)・30日(水)・31日(木)	16
第5回	10月24日(火)・25日(水)	18
第6回	11月28日(火)・29日(水)・30日(木)	12
第7回	1月26日(金)・30日(火)	10
第8回	2月27日(火)・28日(水)	10
延べ参加者計		128

イ. フォローアップ講習会

協力会員のスキルアップと安全で楽しいサポート活動が出来るよう、フォローアップ講習会を開催した。

開催日	内 容	参加者数(人)
6月3日(土)	クロスロード実習	14
オンライン 配信	「子育て・親育ちをサポートするための共感性と関係性を育むコミュニケーション」 大阪公立大学 中島 尚美 特任准教授	
	「障がいのある子どもたちについて知ろう」 ～特性と対応支援の方法 神戸市教育委員会特別支援教育課 上野 昌稔 課長	

ウ. 子どもの救急救命講習 (年2回 32人)

安全・安心な援助活動を行うために子ども対象の心肺蘇生法、AED 使用法などの救急救命講習を実施した。

エ. 依頼会員入会説明会

依頼会員になるための説明会をニーズに合わせた形で実施した。

集団説明会 14回 92人

個人説明会 8回 9人

灘区説明会 1回 14人 (灘区役所)

※灘区拠点児童館事業として実施(河原児童館)

オンライン説明会 26回 611人

※その他、動画視聴による登録62名

オ. 会員交流会

会員相互の交流を目的に会員交流会を実施した。

開催日	内 容	参加者数(人)
10月14日(土)	「ヨガで夏の疲れを解消しましょう」	12
2月15日(木)	「音楽でリラックスしましょう」	20
	計	32

カ. 市民交流会

センターの活動を広く周知するとともに、会員と市民の交流を通じて、新たな会員を募るため、市民交流会を開催した。

開催日	内 容	参加者数(人)
8月5日(土)	「ファミサポ寄席」桂 三若 氏	54

キ. 地域リーダーによる活動

ファミリー・サポート・センターと会員とをつなぐパイプ役を担い、センターの補佐的な業務を行なう「地域リーダー」(各区1~2名)を選任し、地域リーダー連絡調整会議(年6回開催)、会員交流会の企画運営、個人説明会など、センター主催行事のサポートを行った。

ク. 広報活動

- ア) ファミリー・サポート・センター通信の発行 年2回
- イ) 協力会員講習会・依頼会員入会説明会チラシの配架
- ウ) 広報紙 KOBE へ協力会員講習会案内記事の掲載 年5回
- エ) 広報用リーフレットの改訂

広報用リーフレットを、各区保健福祉課の母子保健担当ラインをはじめ、おやこふらっとひろばなど、関係各所へ配布した。

- オ) ホームページでの情報発信
- カ) LINE での情報提供
- キ) 神戸婦人大学受講者向けに制度の説明及び「子どもと遊び」の講義
- ク) シルバー人材センター会報への掲載

協力会員としてのファミリー・サポート・センター事業参加呼びかけを行った。

ケ. KOBE シニア元気ポイントとの連携

協力会員としての活動がシニア元気ポイントの対象になるよう、KOBE シニア元気ポイント事務局と連携して登録説明会の開催を行うとともに、ポイント対象時間の確認ができるよう、神戸市ファミリー・サポート・センター運営システムを改修した。

コ. ファミリー・サポート・センター事業の引継ぎ

ファミリー・サポート・センター事業について、令和6年度以降の実施事業者である「コープこうべ」に円滑に移行するため、新センターでの職員を受け入れ、研修を実施するとともに、具体的な引継ぎを行った。

地域福祉施設の管理運営

市民の福祉活動推進拠点である総合福祉センター、こうべ市民福祉交流センターの管理運営を行った。

(1) 総合福祉センターの管理運営

①貸会議室利用状況

室名	第1会議室	第2会議室	第3会議室	第4会議室	第5会議室	合計
利用件数	636件	495件	644件	488件	631件	2,894件

②社会福祉研修室利用状況

室名	第1研修室	第2研修室	第3研修室	第4研修室	第5研修室	合計
利用件数	450件	536件	354件	442件	514件	2,296件

③障がい者福祉センター会議室等利用状況

室名	A会議室	B会議室	C会議室	体育室	合計
利用件数	493件	536件	623件	489件	2,141件

④障がい者福祉センター駐車場利用状況

利用台数	4,836台
------	--------

③、④は障害者福祉センターの委託業務

(2) こうべ市民福祉交流センターの管理運営

貸室利用状況

室名	件数	室名	件数
201教室	432件	401研修室	—
301教室	330件	402研修室	—
302教室	324件	403研修室	—
303教室	377件	501研修室	443件
304教室	—	502研修室	493件
介護実習室	133件	503研修室	374件
調理実習室	66件	合計	2,972件

※304・401・403教室は貸室利用なし

神戸市介護サービス協会事務局の受託

(1) 協会の概要

介護保険制度に関係する団体が連携し、介護保険に関係する情報共有や各分野に共通する課題検討、サービスの質の向上への取り組みを行った。

(2) 構成団体（7団体）

神戸市老人福祉施設連盟、神戸市介護老人保健施設協会、神戸市民間病院協会、神戸市シルバーサービス事業者連絡会、神戸市医師会、神戸市歯科医師会、神戸市薬剤師会

(3) 協力団体（4団体）

兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会神戸ブロック、神戸市ケアマネジャー連絡会、神戸市リハ職種地域支援協議会、兵庫県栄養士会

(4) 主な事業

介護現場における多職種連携の課題を検討するとともに、オンラインを活用した研修会を開催するなど、介護人材育成に取り組みました。

①総会、理事会、運営委員会等開催

総会（1回）、理事会（2回）、運営委員会（5回）、神戸市との意見交換会（2回）

②部会開催

居宅介護支援サービス部会（6回）、在宅サービス部会（6回）、施設サービス部会（6回）

③研修会の実施

全体研修会（3回・ハイブリット開催/対面開催）、
サービス提供責任者研修会（3日コース×1回）、オンラインセミナーシリーズ（4回シリーズ×1回、3回シリーズ×6回）

④協会事業の広報

機関紙発行（1回）、ホームページの運営、公式LINEアカウント、メールマガジン

⑤神戸市高齢者介護士認定事業の実施

神戸市高齢者介護士委員会（3回）、実務者会（4回）

神戸市高齢者介護士講習会（4回：うち2回はオンライン開催）

神戸市高齢者介護士認定試験（1回）

神戸市高齢者介護士認定証授与式

ミッション3 つながり、支え合う

地域福祉活動の推進強化

(1) 区社会福祉協議会との連携・協働

区社協との連携のもとで、ふれあいのまちづくり協議会をはじめとした地域団体や専門機関、区行政と円滑に連携・協働を進め、小地域単位で住民同士が支え合える仕組みづくりに取り組んだ。

各区社協においては、各ワーカーや事業の担当者間で、情報や課題を共有し、各々の視点を活かした連携・協働を行い、コロナ禍で複雑・多様化した課題に対し、区社協の総合力で事業を展開した。

①地域福祉部会の運営

区社協代表者等による地域福祉部会を書面にて開催し、各区の特色に応じて実施している事業等の情報共有、事業を展開する上での課題についての検討や意見交換を行った。

②区社協の組織体制に合わせた連絡会等の開催

区社協との連携を深め、市社協・区社協が行う地域福祉事業を円滑に進めるため、神戸市も含めた連絡会を開催し、情報交換と課題の協議を行った。

③成年後見制度の利用手続き相談室の運営

相談室の確保や相談者の受付け、広報など、区社協の運営協力を得て「成年後見制度の利用手続き相談室」を市内全区で開設し、住民に身近な窓口での相談機能の充実を図った。

④地域福祉推進を目的とする各区社協事業への助成

「地域福祉推進基金」を活用し、「だれもが住みなれた地域で安心して心豊かに暮らせるまちづくり」を目標に、地域住民やボランティア等との協働のもとで、区社協が実施する地域福祉の推進を目的とした事業及び社会福祉法改正に伴う、各区社協の法人基盤の強化も含めた経費の助成を行った（9区計：11,474,290円）

【各区社協助成事業一覧】

区	事業名	助成額 (うち法人基盤強化分)
東灘	なかよしキッズ、東灘区社協ガイドの作成、障害者福祉事業所 応援プロジェクト、地域の心と心を結ぶ「おむすびカレンダー 事業」	2,036,000 円 (1,000,000 円)
灘	地域子育て支援事業ベビーキャラバン、児童館専門相談、医療・ 介護・福祉連携モデル事業・なだふくしフェスタ	1,000,000 円
中央	おしゃべりほっとタイム、発達がゆっくりな児童及び保護者へ の対応支援強化事業、広報力アップ講座、広報啓発活動の強化	712,069 円
兵庫	つどいの場活性化事業、やさしさと思いやり教育推進事業、 地域貢献的居場所づくり、区社協広報誌・さんぼみち	843,952 円
北	ひきこもり・不登校の人たちの居場所づくり事業、地域子育て パワーアップ事業、支え合いのまちづくり事業	1,487,765 円 (800,000 円)
長田	地域活動への講師派遣助成事業、障がい福祉サービス事業所等 の連携強化事業、地域共生事業（日本語教室によるコミュニケ ーションスキルの向上事業）	1,000,000 円
須磨	未来につなぐ福祉のこころ育成事業、区社協広報活動及び ICT 環境整備	888,828 円
垂水	赤ちゃん訪問活動支援、ひとり親世帯への支援（アウトリー チ）、ひきこもり家族への支援事業、就活セミナー事業、元気な うちの税務相談、区社協お役立ちガイド増刷、LINE でつながり づくり出前講座	505,676 円
西	地域がイキイキ！つながりスタートアップ事業、あんしん見守 りカレンダーの配付、KWN（西区自立支援協議会）と連携した西 区健康・福祉フェア、神戸市西区授産施設製品等販売促進支援 事業	3,000,000 円 (1,500,000 円)

⑤区社協実施事業への支援

地域における住民相互の助け合いや交流を促進するため、住民主体のコミュニティ
づくりや、福祉活動を行うボランティアの育成を進めるなど、区社協で実施する事業
や、区ボランティアセンターの運営などに対して助成した。

⑥区社協役員協議会の開催

市・区社協の理事長などの役職員が一堂に会し、地域福祉の推進に向けた意見交換
などを行うことにより、“こうべ”の社会福祉協議会として、今後の進むべき方向性
について、共通認識を深めた。

日 時：令和6年2月19日（月）15時30分～

場 所：三宮研修センター6階（神戸市中央区八幡通4丁目2-12）

内 容：「地域共生社会を実現するために 重なり・つながり・支え合う」

講 師：日本福祉大学 学長 原田 正樹氏

参加者：69名

(2) 地域支え合い活動推進事業の推進

サービス提供主体の多様化と地域資源の充実に向けた「生活支援体制整備事業」を全市で実施した。

①生活支援コーディネーターの配置

区社協に生活支援コーディネーターを配置し、地域の関係団体のネットワークによる課題や資源の情報共有、地域に不足するサービスの立ち上げを支援した。

生活支援コーディネーター連絡会を月1回開催し、地域支え合い活動推進事業の進捗状況や地域福祉活動推進のための取り組みに関する情報交換と課題の協議等を行った。今年度は、新任生活支援コーディネーターを対象にオリエンテーションを実施。全体に向けたスキルアップ研修開催し、第1層生活支援コーディネーターの役割や地域への関わりの視点を学び、資源開発について社協の強みを活かした実施に繋げる一助とした。

②協議体機能を有する会議等の運営

協議体機能を有する会議等を区社協の生活支援コーディネーターが中心になって、高齢者の生活支援に関わる住民組織・事業者・NPO・社会福祉法人・行政等の地域の関係団体のネットワークづくりと新たな資源開発の場として運営し、高齢者の生活ニーズの現状と地域資源の情報等を共有し、地域で不足するサービスの立ち上げ支援、担い手不足等の課題に対して共通認識を持った。(全市開催実績 7回)

③つどいの場支援事業の推進

地域住民などによって自主的に運営され、身近で高齢者のだれもが自由に参加できる、「つどいの場」を充実させるため、区社協の生活支援コーディネーターを中心に、運営に関する助言や情報提供、活動について現状・課題等の把握を行い、つどいの場が継続するよう支援を行った。(申請 229 グループ)

(3) 地域資源情報(つどいの場・通いの場)の集約

地域住民やボランティアによるつどいの場や通いの場の活動等の地域資源を区社協・あんしんすこやかセンターと連携しながら全市的に把握し、一元管理するための集約・更新を継続的に行った。(全市合計：1,792箇所<R6.3.31最新>)

(4) 重層的な見守りネットワーク構築の推進

ひとり暮らしの高齢者等を対象に見守り活動、閉じこもり防止活動や日常生活支援活動について、きめ細かな支援を行うとともに、関係者の協力のもと全市的な支え合い活動を支援した。主な取り組みとして、各区における民生委員・児童委員の協力による「高齢者見守り調査」や見守り活動の支援、また、ボランティアによる友愛訪問活動(全市：1,138グループ)やふれあい給食活動(全市：234グループ)、テレホンサポート事業(全市ボランティア数：75名)を実施し、住民による見守り活動を支援した。

新型コロナウイルスが第5類に移行したことに伴い、ふれあい給食会活動においても制限が緩和され、無理のない範囲での会食形式での活動が推奨されるようになった。コロナ禍においての配食などの代替的な活動から会場での会食形式への再開に向けた支援をした。

区社協が本事業の調整及び各あんしんすこやかセンターへの支援など事業推進の中心的な役割を担っており、区社協を支援するための推進方策の検討や活動費助成・事業

費の補助を行った。

神戸市民生委員児童委員協議会事務局の運営

(1) 事業内容

神戸市民生委員児童委員協議会の運営を担い、区民児協の連絡調整、民生委員・児童委員の資質向上のための研修会等の開催、関係機関との連絡調整、全国会議等への参加調整、表彰及び慶弔に関する事務並びに、互助共済事業を行い、会員に対して共済給付を行った。

①常任理事会（民生委員児童委員部会）等の開催

毎月1回 第3木曜日開催（11回）、理事会2回

②近畿ブロック府県・指定都市民生委員・児童委員関係事業会議の開催

令和5年9月20日・21日

③全国会議等への参加調整

指定都市社協・民児連連絡協議会 書面

全国民生委員児童委員大会（8名）

全国児童委員・主任児童委員活動研修会（3名）

民生委員・児童委員リーダー研修会（3名）

全国民生委員指導者研修会（2名）

④表彰及び慶弔に関する事務

全国民生委員児童委員連合会会長表彰（2団体および55名）

全国社会福祉協議会会長表彰（5名）

⑤各種民生委員児童委員研修会等の開催と参加調整

物故民生委員・児童委員顕彰碑合祀祭、社会福祉大会、地区民生委員児童委員協議会会長研修会等

⑥民生委員共済給付金の交付

【市民児協共済】

区分	死亡	配偶者死亡	傷病	配偶者傷病	災害		退任				旧会員死亡			合計
					全焼・全壊・流出	半焼・半壊	10年以上	6年以上10年未満	3年以上6年未満	3年未満	15年以上	10年以上	3年以上	
件数	10	13	36	4	0	0	8	5	6	10	7	2	0	101
金額 (千円)	300	130	252	20	0	0	80	40	36	50	140	20	0	1,068

⑦ICT化の推進

活動の効率化、事務負担の軽減を目指し、個人情報紙媒体で扱うリスクの軽減を図るため、令和3度より導入しているタブレットを活用して情報を共有し、個人情報を安全に管理するプログラムを構築しモデル区において先行実施を行った。

(2) 民生委員・児童委員活動の推進

社会福祉協議会として民生委員・児童委員活動を推進するため以下の事業を実施した。

①地区民生委員児童委員協議会会長研修会

②民生委員互助事業の実施

民生委員活動の振興をはかることを目的に、全国社会福祉協議会の実施する民生委員互助事業について、弔慰、見舞・退任慰労等に関する給付事務を行った。

【全社協民生委員互助事業】

区分	公務死亡	一般死亡	配偶者死亡	公務傷害疾病	一般疾病		災害		退任			合計
					2 カ 月 以 上	2 カ 月 未 満	全 壊 ・ 大 規 模 半 壊	半 壊	15 年 以 上	9 年 以 上 15 年 未 満	3 年 以 上 6 年 未 満	
件数	0	10	13	6	22	6	0	0	3	7	8	75
金額 (千円)	0	300	130	220	220	48	0	0	21	35	24	998

福祉団体、NPO やボランティアグループへの助成

(1) 善意銀行の運営

金銭、物品を預託として善意銀行で受け入れ、福祉活動を行っている団体・施設に払い出しを行った。

①金銭預託・払出実績

預託 件数	預託金額	払出先	払出 件数	払出金額
45 件	4,049,598 円	児童福祉の事業を行う団体	5 件	370,000 円
		障害者福祉の事業を行う団体	1 件	50,000 円
		福祉一般団体等	3 件	170,000 円
		児童福祉施設等入所児童へ就学助成	4 件	1,200,000 円

②物品預託・払出実績

預託物品	預託数量	払出先
車いす	3 台	高齢者福祉関連施設 (1 台)
		地域福祉関連団体 (2 台)
食品、お弁当	5 団体	地域福祉関連団体、 子どもの居場所づくり関連団体 児童福祉関連施設、教育機関等
日用品	2 団体	高齢者福祉関連団体

災害支援の取り組み

(1) ウクライナ戦争被害に対する神戸市内避難者への支援募金

神戸市内に避難したウクライナ戦争被害者に対する支援募金を実施し、避難者の神戸市内での生活支援のための配分を実施した。

① 寄付件数：238 件

寄付額：6,877,903 円

② 配分使途：戦災避難者の支援を行う支援団体を通じて避難者の意向を聴き、有識者及び神戸市関係部局、関係団体、本会事務局長で構成する募金配分委員会で決定した。

	配分内容	配分時期・対象・配分所要額
第1次配分	市内の移動旅費の支援を求める意見が多数であったため、ICOCA カード、子ども ICOCA カードを配布	配分時期：令和4年8月～11月 配布対象：大人70人、子ども5人 所要額：1,487,500 円
第2次配分	1次配分と同じく、市内の移動旅費の支援を求める意見が多数であったため、ICOCA カード・子ども ICOCA カード(チャージ費用)を配布	配分時期：令和5年1月～4月 配布対象：大人68人・子ども4人 所要額：1,436,640 円
第3次配分	避難生活の長期化に伴い、避難者の生活課題が多岐にわたっているため、日用必需品等の購入など広範な使用に利用できるよう、避難者全員を対象に商品券を配布	配分時期：令和5年6月 配布対象：78人 所要額：3,900,000 円

※募金実施期間：令和4年4月11日(月)～令和4年12月30日(金)

※第1次・第2次配分については令和4年度中に実施

※第3次配分後の残額を日本赤十字社が実施する「ウクライナ人道危機救援金」へ寄付21,938 円

(2) トルコ・シリア地震災害救援募金

令和5年2月6日に発生した、トルコとシリアの国境付近を震源とする地震により被災した現地の方々を支援するための災害救援募金を実施した。

① 実施期間：令和5年2月15日(水)～令和5年4月28日(金)

② 寄付件数：318 件

寄付額：13,003,652 円

③ 使途：日本赤十字社が実施する「2023年トルコ・シリア地震救援金」へ寄付。

(3) 令和6年能登半島地震災害救援募金

令和6年1月1日に発生した、能登半島を震源とする地震により被災した方々を支援するための災害救援募金を実施した。

① 実施期間：令和6年1月5日(金)～令和6年11月29日(金)

② 寄付件数：776 件

寄付額：49,494,961 円(令和6年3月31日現在)

③ 使途：日本赤十字社が実施する「令和6年能登半島地震災害義援金」へ寄付。

- ④ 第1次送金：30,947,244円
 ※5月に第2次送金予定。以降、随時送金予定。
 ※令和6年5月14日現在 56,207,003円（831件）

民間社会福祉施設の振興

民間社会福祉施設の職員処遇の向上と経営安定を図るため、退職手当共済及び福利厚生事業を実施するとともに、施設行事・運営の支援を行った。また、施設部会において、社会福祉法の改正、社会福祉法人の公益的活動等、新たな国の方針に対応した社会福祉法人・社会福祉施設運営の課題について協議を行った。

(1) 施設部会の開催

神戸市への予算要望などを通じて民間社会福祉施設の諸課題に取り組んだ。

(2) 人材確保・定着のための支援

① 「民間社会福祉施設職員退職手当共済事業」の実施

神戸市内の民間社会福祉施設の経営者ならびに従事職員の相互扶助を目的とした退職手当共済事業を実施した。

令和4年度財政決算では、責任準備金に対する積立水準が102.6%となり、健全な財政状況である。

区 分	令和5年度	令和4年度
年度内加入者	10,831人	10,660人
退職者数	1,507人	1,395人
給付金	768,718,707円	684,147,229円

② 「民間社会福祉事業職員福利厚生事業」の実施

国内研修費を各種別施設連盟に助成し、社会福祉士・介護福祉士等の国家試験合格者に祝金を給付し、勤続15年の職員に永年勤続記念品を贈呈した。

また、家庭用常備薬や自動車保険・火災保険等の集団扱制度の斡旋を実施した。

区 分	令和5年度	令和4年度
国内研修費	680,000円	480,000円
合格祝金	477,000円(159人)	438,000円(146人)
永年勤続記念品	1,153,900円(140件)	980,980円(119件)
合 計	2,310,900円	1,898,980円

(3) 民間社会福祉施設職員激励会

施設に勤務する職員の日頃の労をねぎらい勤続5年の市長感謝状を贈呈するための激励会を開催した。

実施日：令和5年11月27日(月)

会 場：ザ マーカスクエア神戸

参加者：220人

(4) 施設運営助成の実施

各連盟実施行事・研修等への助成 14件

(5) 新春福祉関係者のつどい

市内の福祉施設や福祉団体の関係者が一堂に会し交流と親睦を深めた。

実施日：令和 6 年 1 月 23 日(火)

会 場：ANA クラウンプラザホテル神戸

参加者：271 人

多様な福祉活動参加の推進

(1) 社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）の活動支援

各区の社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）の活動の活性化を図るため、各社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）の事務局（区社協）で、内容や進め方、方向性等について共有・検討した。

(2) 神戸市社会福祉大会の開催

市民の福祉推進の決意を新たにするとともに、社会福祉事業の協力者、功労者の功績を顕彰する社会福祉大会について、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から長らく大会の開催を中止し表彰推薦のみ行ってきたが、3年ぶりに開催した。

理事長感謝状受賞者	社会福祉事業協力者	金品の寄贈 12 人、21 団体
		奉仕活動 27 人、56 団体
	永年勤続功労者	253 人

(3) 共同募金運動・歳末たすけあい募金運動の推進

市内 9 区が行う「共同募金運動」及び「歳末たすけあい募金運動」の活動推進支援を通じて福祉活動の基盤づくりに努めた。

①共同募金活動（期間 令和 5 年 10 月 1 日～令和 5 年 12 月 31 日）

※上記実績額のうち拡大期間（令和 6 年 1 月～3 月）の実績額

②歳末たすけあい募金（期間 令和 5 年 12 月 1 日～12 月 31 日）

区別	①共同募金活動 （※期間拡大期間実績額）		②歳末たすけあい募金	
	目標額	※実績額	目標額	実績額
	期間 令和 5 年 10 月 1 日～令和 5 年 12 月 31 日 （※令和 6 年 1 月～令和 6 年 3 月）		期間 令和 5 年 12 月 1 日～令和 5 年 12 月 31 日	
東灘	5,957,000 円	5,565,267 円 (未実施)	6,000,000 円	5,850,224 円
灘	6,739,000 円	6,548,913 円 (279,913 円)	2,062,000 円	2,036,274 円
中央	8,046,000 円	7,399,851 円 (943,982 円)	3,000,000 円	3,300,019 円
兵庫	6,961,000 円	6,893,913 円 (781,936 円)	1,800,000 円	1,385,138 円
北	7,148,000 円	6,348,905 円 (454,246 円)	4,600,000 円	3,873,692 円

長田	4,140,000 円	4,143,313 円 (7,459 円)	2,550,000 円	2,334,219 円
須磨	4,355,000 円	4,473,015 円 (66,388 円)	1,460,000 円	1,087,970 円
垂水	4,807,000 円	4,647,552 円 (553,736 円)	2,161,000 円	2,322,000 円
西	6,146,000 円	6,421,574 円 (550,713 円)	1,630,000 円	1,630,000 円
合計	54,299,000 円	52,442,303 円 (3,638,373 円)	25,263,000 円	23,819,536 円

活動を支える体制の強化

(1) 理事会・評議員会等の運営

会議名称	期 日	主 な 議 題
理事会	6月14日	評議員選任・解任委員の選任、評議員選任・解任委員会の招集と評議員候補者の推薦、令和4年度事業報告及び決算、令和5年度定時評議員会の招集と上程議案
	6月30日 決議省略	副理事長の選定、専務理事の選定、評議員選任・解任委員の選任
	12月13日 決議省略	評議員選任・解任委員会の招集と評議員選任候補者の推薦、会計規程の改定、役員賠償責任保険契約の締結
	3月8日	評議員選任・解任委員会の招集と評議員候補者の推薦、令和5年度第3回評議員会の招集と上程議案、重要事項の報告
	3月28日	吸収合併に伴う協議事項への合意、吸収合併契約の締結、評議員選任・解任委員会の招集と評議員選任候補者の推薦、令和5年度第4回評議員会決議の省略と上程議案、評議員選任・解任委員の選任、令和5年度補正予算、令和6年度事業計画及び予算
評議員会	6月30日	理事の選任、監事の選任、令和4年度事業報告及び決算の承認
	3月8日	重要事項の報告
	3月28日	吸収合併に伴う協議事項への合意、吸収合併契約の承認、令和5年度補正予算の承認、令和6年度事業計画及び予算の承認
監事監査	6月3日	令和4年度事業報告・決算に関する監査
	11月10日	会計監査人との意見交換
評議員選任・解任委員会	6月19日	評議員の選任について
	12月14日	評議員の選任について
	3月11日	評議員の選任について
	3月29日	評議員の選任について

(2) 部会・委員会の開催

会議名称	期 日	主 な 議 題
民生委員児童委員部会	11回開催	民生委員・児童委員による地域福祉活動の推進
地域福祉部会	書面決議	R5 神戸市社会福祉協議会事業計画区社協助成申請の審議、地域福祉推進基金事業予算など
児童福祉部会	6月1日	R4 事業報告・決算

	3月11日	R6 児童福祉基金事業計画・予算、R6 助成申請の審議など
障害者福祉部会	5月26日	R4 事業報告・決算
	3月6日	R6 障害者福祉基金事業計画・予算、R6 助成申請の審議など
施設部会	5月30日	部会員の交代、R4 事業報告、R6 年度神戸市予算に対する予算要望、R5 民間社会福祉施設職員激励会について、第30回新春福祉関係者のつどいについて、神戸市域での「社協における生活困窮者支援体制強化事業」の実施
	8月30日	R5 ワークキャンプ、R5 民間社会福祉施設職員激励会について、第30回新春福祉関係者のつどいについて、大都市社会福祉施設協議会（広島大会）について、R6 予算要望
	12月8日	R5 民間社会福祉施設職員激励会振り返り・報告、第30回新春福祉関係者のつどいについて
	3月11日	R5 施設部会事業報告、R6 事業計画等、民間社会福祉施設職員激励会の方針、第30回新春福祉関係者のつどい決算見込、大都市社会福祉施設協議会（広島市大会）報告
神戸市民間社会福祉施設職員退職手当共済・福利厚生事業運営委員会	5月30日	R4 運用実績、R4 決算報告、資産運用検討委員会報告、加入法人事業実績報告、信託財産拋出、「事業規程」の一部改訂
	8月30日	資産運用検討委員会報告、四半期運用実績、R4 財政決算報告
	12月8日	四半期運用実績、資産運用検討委員会報告、加入法人事業実績報告、信託財産拋出
	3月11日	四半期運用実績、R5 決算見込、R6 事業計画・予算、資産運用検討委員会報告、R5 実施状況及び決算見込
神戸市民間社会福祉施設職員退職手当共済資産運用検討委員会	5月11日	R4 運用実績、R4 決算報告、資産運用検討委員会報告、加入法人事業実績報告、信託財産拋出
	7月31日	資産運用検討委員会報告、四半期運用実績、R4 財政決算報告
	11月16日	四半期運用実績、資産運用検討委員会報告、加入法人事業実績報告、信託財産拋出
	2月29日	四半期運用実績、運営委員会報告、R6 事業計画、信託財産拋出

会議名称	期 日	主 な 議 題
市民福祉大学カリキュラム 検討委員会 社会福祉施設従事者研修部会	1月24日	R5 事業実施状況報告、R6 事業計画
市民福祉大学カリキュラム 検討委員会	2月9日	R5 事業実施状況報告、R6 事業計画
こうべ安心サポート委員会	8月8日	専門部会の活動報告、安心サポートセンター・成年後見支援センターの活動状況報告など
こうべ安心サポート委員会 安心生活支援部会・成年後見 判定部会	12回開催	成年後見の市長申立てに関する助言
こうべ安心サポート委員会 権利擁護事業部会 事業運用審査委員会	6回開催	日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事業）に関する審議・助言（契約締結審査会としても位置付け）
こうべ安心サポート委員会 権利擁護事業部会 監査委員会	6月28日	日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事業）・法人後見事業の利用者の財産管理に関する監査
こうべ安心サポート委員会 市民後見部会	8回開催	成年後見支援センターの運営、 市民後見人養成研修等に関する助言
こべっこランド療育指導部会	9月28日	R4 年度事業報告、R5 年度事業計画
こべっこランド運営委員会	10月26日	R4 年度事業報告、R5 年度事業計画
児童館 運営委員会	6月～7月	R4 年度事業報告、R5 年度事業計画
こうべ障がい者芸術フェスタ 実行委員会	7月10日	R4 決算書、R5 補正予算及び実施計画、出演者の選定
	3月6日	R6 実施計画骨子、R6 予算書、市社協会計への統合、規約の変更等
こうべ障害者音楽フェア 実行委員会	7月10日	R4 決算書、R5 予算書及び実施計画
	3月6日	R6 実施計画、R6 予算書
生駒温子児童福祉事業助成 審査委員会	3月4日	R5 公募助成、申請審議
ボランティア情報センター運 営委員会	6月9日	R4 ボランティア情報センター事業報告案、R4 ボランティア基金事業決算報告案
	3月19日	R6 市社協ボランティアグループ活動助成変更案、 R6 ボランティア基金収支予算案、R6 ボランティア情報センター関連市社協事業計画案

(3) 市・区社協組織体制あり方検討

市・区社協が連携して地域生活課題への対応を始め地域福祉活動を一層推進すること、法人運営規律の強化を図ること、効率的な事業運営や人が育つ組織体制を構築することを目的に、令和5年度は昨年度に引き続き、市・区社協の法人合併に向けた組織体制を協議するため区社協及び市社協の役員等で構成する「市・区社協組織体制あり方検討会」を開催し、令和7年4月1日合併に向けて、令和6年4月1日付けの合併契約書・基本合意書の締結の決議を各々の市・区社協の評議員会で決議がされた。

会議名称	期日	主な内容
第3回 市・区社協組織体制あり方検討会	5月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・法人合併の検討(課題と方策) ・方策1(①区社協の独自財源の確保[資産管理] ②区社協裁量の確保(ア:業務執行体制 イ:常任委員会の構成例・市社協定款改正案の提示)) ・方策2(事務の効率化と合理化)
第4回 市・区社協組織体制あり方検討会	8月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・基本合意書(素案)の説明 ① 社会福祉法により吸収合併について ② 区担当業務執行理事の裁量職員雇用に関して
第5回 市・区社協組織体制あり方検討会	10月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・基本合意書(案)について(①素案への意見 ②素案修正) ・合併契約書(案)について ・法人合併後の”こうべ”の社協の事業展開 ・合併までのスケジュール

そして第5回あり方検討会までに基本合意書(素案)に対する各区社協の質問に答えるために、各区社協の正副理事長会・理事等への説明会へ出向いて質問等へ対応した。

また大規模なあり方検討会とは別で、今年度から市社協も加わり、市・区社協の理事長だけでの各区状況等の意見交換会を開催した。

会議名称	期日	主な内容
第1回 市・区社協理事長意見交換会	7月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・各区の合併に関する理事会・評議員会での状況報告 ・区社協からの意見について
第2回 市・区社協理事長意見交換会	1月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・各区のあり方検討会の報告等での状況報告 ・区社協からの意見についての回答・説明 ・法人合併後の区役所との関係

(4) 新しい時代に適応した人材の育成

①職員の採用

定期採用試験(秋募集)において、応募者の当会への理解を深めることを目的とした採用説明会を実施し、応募者95名から主事6名(専任職からの登用者3名含む)を採用した。

また、本会において一定の経験を有する者で、育児・介護、配偶者の転勤等やむを得ない事情により離職した職員を即戦力職員として再び採用する「キャリアリターン制度」を創設した。

②職員の育成

ア. 人事評価制度の実施

職員がその職務を遂行するにあたり発揮した能力や挙げた業績を公正に評価し、人事管理を行うことにより、職務成果の向上につなげることを目的に実施した。

イ. 階層別研修

新規採用職員研修（規模を縮小して実施）

新任職員研修（兵庫県社協主催研修の受講）

2年目職員研修（兵庫県社協主催：「新任職員ステップアップ研修」の受講）

3年目職員研修（兵庫県社協主催：「コミュニケーション実践研修」の受講）

4～6年目職員研修（市民福祉大学主催：「フォローシップと後輩指導」の受講）

3級昇格職員研修（神戸市主催：3級昇格職員研修の受講）

7～9年目職員研修（兵庫県社協主催：「上司を補佐し、能動的に関わる指導的職員のための研修」の受講）

課長昇任時研修（神戸市主催：係長昇任時研修の受講）

部長昇任時研修（神戸市主催：課長昇任時研修の受講）

部長・課長級職員研修（兵庫県社協主催：「組織マネジメント基礎研修」、
「組織マネジメント実践研修」、「労務管理研修」の受講）

新任局長研修（兵庫県社協主催研修の受講）

ウ. 研修の解促進、受講機会の確保の取り組み

当会で実施した集合研修（著作権、災害支援）の録画映像や、障がい者差別解消法・LGBTQ・障がい者雇用に関する学習に資する動画について、職員がいつでも視聴できるよう、社内のグループウェアに常時掲載した。

③ 適正な業務環境の整備、働き方改革の推進、コンプライアンスの徹底等

時間外労働や年次有給休暇の管理方法の整備などの働き方改革の推進とともに、事業展開の際の著作権・肖像権対策、個人情報保護などの研修を実施するなどコンプライアンスの徹底に努めた

(5) 職員災害支援研修の実施

災害ボランティアセンターの運営や市外被災地への応援派遣に関するスキルアップを目的に、本会職員を対象とした階層別研修を実施した。

①第1回災害支援研修「初級」

内 容 動画研修「おしえてくぼた君！」（市社協 YouTube で限定公開）

災害支援に係る基本的な内容を動画視聴によって研修（1つ10～15分程度）

期 間 令和5年8月23日（水）～令和5年12月28日（木）

テーマ 第1回「令和4年度3月福島沖地震 今どうなってるの？」

第2回「支援金と義援金ってなに？」

第3回「コロナ禍のボランティアセンター」

第4回「災害準備金って？」

- 第5回「地域支えあい活動センター」
- 第6回「大学生が災害ボランティア？」
- 第7回「きょうどうがた 災害ボランティアセンター」
- 第8回「活動資機材」
- 第9回「どうして社協が災害ボランティアセンター？」
- 第10回「災害ボランティアセンターをITで省力化！」
- 第11回「災害ケースマネジメント」

②災害支援研修「中級」

内 容 ケースワーク等、実地的な模擬研修

会 場 こうべ市民福祉交流センター 201 教室

日 時 ①令和5年9月29日（金）15：00～17：30

②令和5年10月10日（火）15：00～17：30

※①～②の内、1回受講

参 加 52人

③災害支援研修「管理職」

内 容 災害救助法の法律や、補助金等のお金の流れなど、災害ボランティアセンターの円滑な設置・運営等について、オンデマンド配信にて学ぶ

講 師 楠 聖伸 氏

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

地域福祉部 全国ボランティア・市民活動振興センター 副部長

開催方法 YouTube による聴講形式

日 時 令和5年8月23日（水）～令和5年12月28日（木）